



軍拡競争に入ったアジア

2011 Oct.

# 政界往来

10

600円

Seikaiohrai POLITICAL JOURNAL since 1930

沖縄地場金融リポート 第三弾 本誌特別取材班

モラル喪失の行員、金融円滑化法違反の可能性

日本大学文理学部・森昭雄教授に聞く

「聞く耳をもつた子供に育てる」



野田新政権  
濃霧の船出

苦労人に  
党内融和託す  
—民主党代表選

ペマ・ギヤルポ氏 VS 駐日欧州連合代表部大使

タクシン元首相

「日本とタイ、ともに

5年で6人の首相」

民主党内に浸透する

「反日」勢力

# 野田新政権スタート

## 深い霧の中の船出

### 「和の人事」が足かせにも



野田佳彦首相

6月に事実上、退陣表明をしていた菅直人首相がようやく辞任し、野田佳彦新首相が誕生した。党・閣僚人事は地味で、各グループに配慮し党内融和の構築を目指したことがうかがえる。だが、国内外での重要課題は山積しており、前途は深い霧の中にある。

野田人事の特徴は、党内融和と党代表選での論功行賞を重視したことだ。「親小沢（一郎元代表）対反（脱）小沢」が浮き彫りになった代表選を修復するため、小沢氏に近い奥石東参院議員会長を党の要である幹事長に起用。代表を争つ

た前原誠司元外相は政調会長に就任した。また、鳩山由紀夫前首相と樽床伸二元国対委員長の両グループから、それぞれ平野博文氏を国対委員長、樽床氏本人を幹事長代行の要職で処遇した。

閣僚人事でも、小沢氏側近の山岡賢次元国対委員長を国家公安委員長、一川保夫氏を防衛相に起用。小沢、前原グループから各3人、野田グループから藤村修官房長官を含む2人、菅、旧民主党系旧社会党系の各グループから1人ずつが入閣した。さらに、代表選で一貫して野田氏を支持した安住淳前国対委員長、玄

葉光一郎前政調会長は、それぞれ財務相、外相の重要ポストに就け、論功行賞の色彩が濃い人事となった。

しかし、新党改革の舛添要一代表が「党内向けの『気遣い』内閣が国難から日本を救うことができるのか」と問い掛けたように、果たして国内外で山積している

重要課題に対応できるのかは疑問だ。

第1に、党内向けに気遣うといっても、党内融和を堅持できるか否か自体が最大の課題なのだ。小沢氏に配慮して奥石氏を幹事長に起用したといっても、同氏は民主、自民、公明による3党合意の見直しを表明した海江田万里氏を支持した。

その奥石氏が幹事長になって、果たして3党合意を守れるのかと自民、公明両党が疑問を表明したのも当然だ。

奥石氏はひとまず、これまでの経緯を尊重し3党合意を守ることを約束した。それにより、大震災の復旧・復興のための第三次補正予算案は3党の協力で成立

#### 野田内閣の顔ぶれ

**首相**  
野田 佳彦 54  
早大政経 千葉4区 財務相 B型 おうし座

**総務・沖縄北方**  
川端 達夫 66  
京大院 滋賀1区 文部科学相 A型 みずがめ座 初心生涯

**法務**  
平岡 秀夫 57  
東大 山口2区 副総務相 0型 やぎ座 至誠通天

**外務**  
玄葉光一郎 47  
上智大法 福島3区 国家戦略相 0型 おうし座 不失恒心

**財務**  
安住 淳 49  
早大社会 宮城5区 防衛副大臣 A型 やぎ座

**文部科学**  
中川 正春 61  
米ジョージタウン大 三重2区 AB型 ふたご座 和して同せず

**厚生労働**  
小宮山洋子 62  
成城大 東京6区 副厚労相 0型 おとめ座

**農林水産**  
鹿野 道彦 69  
学習院大 山形1区 農相 A型 みずがめ座 慎始敬終

**経済産業**  
鉢呂 吉雄 69  
北大 北海道4区 大蔵政務次官 みずがめ座

**国土交通**  
前田 武志 73  
京大院 参比例 国土政務次官 A型 てんびん座

**環境・原発事故**  
細野 豪志 40  
京大 静岡5区 原発事故担当相 AB型 しし座

**防衛**  
一川 保夫 69  
三重大 参石川 党参院政審会長 A型 みずがめ座

**官房**  
藤村 修 61  
広島大 大阪7区 副厚労相 B型 さそり座

**国家公安・拉致・消費者**  
山岡 賢次 68  
慶大 栃木4区 党国対委員長 A型 おうし座

**金融・郵政**  
自見庄三郎 65  
九大院 郵政相 参比例国民政新党 さそり座 小医は病を癒し、大医は国を癒す

**国家戦略・経済財政**  
古川 元久 45  
東大 愛知2区 官房副長官 A型 いて座

**行政刷新・公務員改革**  
蓮 舫 43  
青山学院大法 参東京 首相補佐官 A型 いて座

**復興・防災**  
平野 達男 57  
東大 参岩手 復興・防災担当相 B型 おうし座

プロフィール＝最終学歴 選挙区 経歴 血液型 星座 座右の銘

に向けて前進するメドは立った。だが、復興財源を増税によるのか否かなどをめぐり党内が再び対立する可能性は否定できない。野田首相はそれをどう克服していくのか、その前途は霧の中だ。

興石幹事長が党員資格停止処分中の小沢氏について「この難局に参加してもらうことに皆さん依存はないと思う」と述べたことも、不安要因だろう。小沢氏を党の要職に処遇する意向を示したものが、それによって党内融和にさらに向かうのか。「波乱要因になる可能性もあるのでは」（自民党中堅）との見方もある。

第2に、民主党政権になって後退を続けている外交・安全保障への対応である。「日米同盟の深化」を掲げる野田首相は9月1日夜、オバマ米大統領と電話会談し、同月下旬にニューヨークで開催予定の国連総会で首脳会談を行うことで一致した。そこで間違いなくテーマになるのが、鳩山、菅両政権を通じて頓挫している沖繩米軍普天間基地移転問題だ。「県外移転」を求めている地元沖繩をどう説得して実現のメドを付けられるのか、その道筋を提示できなければ意味のある

会談にはなるまい。米露が初参加する東アジアサミットやアジア太平洋経済協力会議（APEC）などの日程も控えている。メドベージュエフ露大統領による不当な北方領土（国後島）訪問、尖閣諸島沖の中国漁船領海侵犯事件、韓国の竹島への実効支配の拡大など領土問題に対して国益を踏まえてきちんとした対応ができるのか。シャトル外交による韓国大統領の訪日の日程も決まらない。野田首相は菅氏が疎かにしてきたすべての外交課題に対処することが求められている。

首相持論の集団的自衛権行使のための憲法解釈の見直しや新憲法制定に対しても、指導力を発揮して取り組むことが必要だ。民主党は憲法審査会を動かす決意をようやく固め、同会所属の議員を選任することになった。そこで、改憲政党・自民党と深い議論を行い、党としての改憲案づくりも期待されている。菅前首相と岡田克也前幹事長が「公約」した在日外国人の党員・サポーターによる代表選への投票権付与問題にも決着を付けることが求められよう。

第3に、円高・デフレ対策をどうする

かだ。野田首相は、速やかに円高・デフレ克服のために緊急経済対策を策定する方針だと言う。ただ、円高問題は欧米の財政・信用不安と米景気回復のもたつきなどに起因している。米国は特に、大幅な経常赤字を是正するためドル安志向を強めており、日本一国では限界のある中で、どう国際協調していけるのか。安住財務相の手腕は未知数だが、デフレ脱却にもこれまでにないアプローチがなければ克服できない。

閣内不一致を突かれそうなテーマが環太平洋連携協定（TPP）への参加問題だろう。米国などは11月のAPECでの大枠合意を目指しているが、外相に就任した玄葉氏はこれまで合意に向けて主導してきた一方で、自由貿易の旗振り役の経済産業相に農業関係議員の鉢呂吉雄氏が起用され、慎重派の鹿野道彦農林水産相も再任された。この調整作業をどう進めていくのか。前途の見通しは厳しい。

野田首相は「ドジョウのように泥臭く、国民のために汗をかく」と語ったが、待たなしの難局をスピード感を持って乗り越える英知と実行力が求められている。

## 民主党代表選出

# 苦労人の演説に 党内融和託す

## 本命らしく振舞わず成功した野田財務相

8月27日公示、29日投票という超短期決戦の民主党代表選挙レースを制したのは、見かけはドン亀のように見える野田佳彦財務相だった。背丈もありスマートで小沢元代表の支持を受け本命視された海江田万里経済産業相や、世論調査人気はダントツで、やはりスタイル、ルックスとも勝っていた前原誠司前外相という、いわば「ウサギ」を出し抜いて、首尾よく代表の座を射止めた。もともと、代表選挙での演説によれば、「自分は金魚でなくドジョウ」というのが本人の認識のようだ。

実際、野田氏は8月10日発売の月刊誌

で政権構想を明らかにしたものの、立候補の意思をなかなか明確にしなかった。その去就を見ても、ドン亀のようなイメージは付きまどっていた。同じく菅直

人内閣の閣僚だった海江田氏も立候補表明は遅かったが、こちらは立候補から程なく、小沢元代表がバックに付き、票読みで他の候補を圧倒。代表選挙前日には5候補の中で、唯一、赤松広隆元農水相、原口一博前総務相ら海江田支持に回った有力議員らに囲まれ、テレビ出演の合間を見つけ有楽町で街頭演説するなど、新代表になったかのように振舞っていた。

一方、前原氏は、野田氏支持の動きが

党内で広がらないという情報に敏感に反応、不出馬の意向を一転させ出馬宣言。小沢氏の海江田氏支持がまだ決まっていなかったため、こちらもあたかも新代表の椅子に一番近い人物であるかのように振舞った。

だが、結果を見れば、「小沢・反小沢」という怨念の政治を終わらす必要があるとの信念を強く保ち、地道に自分のスタイルを貫きつつ、28日の党主催公開討論会や代表選挙当日の演説で、人情の機微をつく演説を行い、財政問題などでブレない姿勢を示した安定感により、勝利を手中に収めた格好だ。

野田氏が勝利を引き寄せることができたのは、政治への情熱に裏打ちされた苦労話と、それから付随的にかもし出される懐の深さ、包容力が心を捉える演説だといえる。

代表選第一回投票の演説では、「自分の越し方をお話したい」と切り出し、まず、貧しい家庭に育ちながらも千葉県議に挑戦した時の苦労話から始まった。

県議の2期目の投票日は大雨となったが、それでも人々は投票所に足を運び、

# 全米で100万人の女性が リヴェイドを使って乳房のセルフチェックをしています。

※2007年末現在 実売数による



オリビア・ニュートンジョン

## 月1回、乳房セルフチェックの新習慣



# Livaid™

オリビア・ニュートンジョンプロデュース  
乳房自己検診補助パッド

## リヴェイド“Livaid”™

リヴェイドは乳房自己検診をサポートする健康管理ツールです。  
乳がんの発見を保証するものではありません。専門医による検診を定期的に行ってください。



リヴェイドは、優れた強度と耐久性のバイエル社の熱可塑性ポリウレタンフィルム  
DUREFLEXブランドのポリウレタンフィルムを使用しています。



私たちは、ピンクリボン運動を応援しています。この商品の売り上げの一部は「NPO法人乳房健康研究会」「NPO法人J。POSH」に寄付をさせていただきます。

リヴェイド購入お問い合わせ先  
レクストン株式会社

代表 043-297-0933

8月29日、  
民主党代表に選出された野田氏



党内融和を進められそうだとの印象を与えたのは確かだ。

一回目投票演説で、苦労話はその後も次々と出てきた。ある勉強会で、『朝顔が早朝に可憐な花を咲かすために敢えて必要なものは、夜の闇と冷たさである』と聞き、人生が変わった」と説明。

また、50人の中小企業の経営者から、一人1万円ずつ支援を受けて落選期を乗り切ったとしみじみ語った。

その上で、日本の底力だった中産階級の厚みが今、薄くなり、こぼれた人がなかなか上がれない、との現状認識を示しながら、そこに光を当てるのが「国民の生活が第一」という民主党の理念だと表明。

最後に、好きな言葉は「ドジョウが金魚の真似をしても仕方がない」というものだとし、ドジョウらしく泥臭く横たわる重たい困難にトコトン挑戦したいと訴えた。

総理候補の演説としては必ずしも次元は高くないが、党内の不協和音と政策の行き詰まりで疲弊していた民主党に、民主党の理念を分かりやすく説明する野田

演説は、そこから脱出できそうな一縷の希望の光をもたらしたと言える。

代表選挙向けの演説では、内政が問題山積のため、野田氏も財政再建論、中小企業対策といった経済政策の部分を前面に出した。しかし、民主党代表は首相をも務める立場になることから外交・安全保障についての認識も重要である。だが、日米同盟が基軸である、という他の候補と同じ発言以上のことは、ほとんど語っていない。

これについては、民主党公開討論会の席上で配布された資料にある「政権構想」の中の「希望と誇りある日本をつくる」の中で次のように総括した。①日米同盟の進化を基軸とした外交の展開、②多極化する世界に積極的に対応する外交の展開、③新たな時代におけるアジア諸国との新次元レベルでの連携。

サンフランシスコ条約を踏まえ、野田氏は「戦犯はもはや存在しない」と発言。これを韓国は批判しているが、鳩山、菅両氏と違って、正確な歴史を踏まえた国益を守る外交が期待できるかも知れない。

前回より多くの票を入れてくれたことに感動した、という。この時に、「1票1票を大切にしよう」と誓った」が、国政選挙2期目で日本一の僅差である105票差で落選する結果となった。

実際は「一人一人を大切に政治をしていなかった」と気づき「痛切に反省」。「二人一人を大切にするのが私の政治の原点」とアピールした。

そのうえで「ここに集った民主党の一人一人の同士の大切にした」と力を込めた。

前日の公開討論会でも、他の4人の候補との思い出を語った。これで、会場のとげとげしい雰囲気や和らぐシーンもあったが、こうした野田氏の演説は、この人物が代表なら党内にある溝を埋め、

# 野田の町 今永

野田佳彦新首相の最大にして最善の政権運営戦術は「低姿勢」だ。衆院と参院の多数派が異なるという「ねじれ国会」を乗り切るためには野党との協調が不可欠である。そのためにはひたすら頭を下げて回らなければならない。首班指名を受けた野田首相は9月1日、組閣前にもかかわらず野党側の自民党の谷垣禎一総裁、公明党の山口那津男代表をそれぞれ訪れるという異例の形で協力を求めたが、両党首ともそれを好感をもって迎えた。

## 「低姿勢」戦術で乗り切り図る

「菅（直人）さんは、震災復興などで野党が協力するのは当然。自分の顔を見たくないならさっさと法案を成立させるとケンカ戦法で挑発し、それが政治空白を生んだ。野田さんの金魚でなくドジョウだと力を抜いた低姿勢は、野党対策上、非常に有効だろう」と政界関係者は見る。

実際、谷垣総裁は野田首相との会談で、民主党のマニフェスト（政権公約）見直しに関する民主、自民、公明の3党合意を持ち出し、「3党幹事長でまたサインしてからスタートだ」と慎重な姿勢を示

す一方で、震災復興・原発対策などに充てる今年度第3次補正予算案に対しては協力する考えを示した。

山口代表も「新首相が誠実に対応しようという姿勢は十分に感じた」と評価。野田首相が提案した復興に関する実務者協議も受け入れることになった。野田首相が組閣後の2日の記者会見で「震災からの復旧・復興が最優先課題だ」と述べたように、冒頭から突き付けられた最大のテーマがこの第3次補正予算の成立であることから、まずまずのスタートに

なったと言える。

だが、不安要因は多い。「野田さんは復興以外の『社会保障と税の一体改革』と『総合経済対策』に関する検討チームの設置も提案したが、そこまでは呑めない」との声が自民党内に強いからだ。谷垣総裁が「三次補正後は解散・総選挙に追い込む」と断言しているように、大連立には至らずとも包括的な政策協定を結ぶ閣外協力にまで関係が強まれば早期の解散を求めるボルテージが弱まってしまふ。そのため、「安易な協調ムードは厳禁」

というわけだ。

野田首相にとって、期待感が広がっているのが公明党の動向だろう。「野田さんと公明党とはかなり前から近い関係にある。公明党は早期の解散を望んでいないので、野田さんの誠実な姿勢を見ながら対応していく」（政界関係者）というのだ。「確かに、参院での首班指名で公明党は谷垣総裁と書いた。これまで通り自公がベースにあるのはもちろんだが、公明党は衆参ダブル選挙を念頭に置きながら民公を進めていく形でもいいと考えている」と先の関係者は続ける。

自民党としては、民主党との政党支持率の差がわずかであっても上回っている以上、次期総選挙では勝てるかと読んでいる。それ故、第3次補正予算成立以降は、審議ストップも含めて強硬姿勢を取る考えだ。しかし、復興に関する協議機関以外の設置についても、民公がまとまって対応していく形となれば、自民党がそれについて行かざるを得なくなる可能性が大きい。

いくだろうが、それは野田首相にとって好都合である。

だが、問題はもう一つ、党内にある。本当に党内融和を構築できるのか。小沢一郎元代表に近い奥石東参院議長を幹事長に起用したことで、党内対立が再燃する可能性も指摘されている。確かに、代表選で3党合意を見直した海江田万里氏を支持した奥石幹事長は、これまでの経緯を尊重し、3党合意をベースに対応して行くことを表明した。しかし、具体策に入り込むと難問が噴出する。

自民党幹部は「5人の代表選候補者の中で、増税を明言したのは野田さんだけ。小沢さんの傀儡とも言われる海江田さんは『増税なき復興財源の捻出』を言い、政調会長の前原（誠司）さんも『安易な増税に頼らない』と主張した。復興予算ありきだけど、財源問題となると党は真つ二つに割れるのでは」と語る。

野田首相は「拳党態勢、全員野球」を理由に小沢グループのベテラン・山岡賢次国家公安委員長や一川保夫防衛相、それに近い鉢呂吉雄経済産業相を閣内に配

置したが、彼らが増税問題や環太平洋連携協定（TPP）交渉参加問題などで「反対」を表明した場合、「閣内不一致」として即座に自民党など野党から内閣不信任を突き付けられよう。

代表選で敗北した小沢一郎氏の動向も不気味だ。衆参で3つに分かれているグループの「北辰会」「一新会」「参院小沢系」（計約110人）を統合して自ら会長に就任し、「私がグループをまとめ今までにできなかったことをやる」と宣言したのだ。この動きについて「小沢さんは代表選の敗北による求心力低下を防ぐため、新党結成には動かず、来年9月末に行われる次の代表選に照準を合わせて結束を強化し、活動を再開するようだ」と全国紙政治部デスクは指摘する。

小沢氏は今回の人事を表面上は好評価している。だが、各所に埋め込まれた「地雷」がいつ爆発するのか。野田首相は「ノーサイドにしよう」と呼び掛けたが、その平穩はいつまで続くのかはつきりとは分からない。野田首相が融和を阻む党内の要因をどうはね除けて指導力を発揮できるのか、注目される。

# 民主党内に浸透する「反目」勢力

## 「政権交代」から2年、党の「闇」明るみに

### 国民の信頼回復に、不可欠な関係清算

東日本大震災や原発事故の陰に隠れ、産経新聞以外の大新聞はあまり報道しなかったが、菅直人前首相をはじめとした少なからぬ民主党国会議員が、北朝鮮による日本人拉致事件容疑者の親族が関係する政治団体と、「人とカネ」の面で深く関わっていたことが明らかになった。そればかりか、民主党内には極左暴力集団との関わりを指摘される幹部もいる。政権党でありながら、親北団体や左翼過激派など「反目」団体と連携する政治家を抱える民主党の「闇」。結党以来の党の体質を探っていくと、政権交代から3代目となった野田佳彦首相がなすべき最重要課題が見えてくる。

菅氏と親北団体との深い関わりが明るみになったのは、7月2日付産経新聞の報道が発端だった。同氏の資金管理団体

「草志会」が、政治団体「市民の党」（酒井剛代表）から派生した政治団体「政権

クス・レーニン主義に染まる革命家で、同党の事実上の機関紙にはよど号ハイジャック犯の故田宮高磨元リーダーの寄稿を掲載するなど、長年に渡って親北的な政治姿勢を取る人物だ。

また、「市民の党」には、日本人を北朝鮮に拉致したとして国際手配されている森順子容疑者と田宮元リーダーを両親に持つ男性が所属している。北朝鮮生まれの男性は、7年前に日本に帰国。今年4月には東京・三鷹市議選に市民の党から立候補したが、落選した。

産経新聞の報道のあと、自民党は「菅首相拉致関係献金疑惑追及プロジェクト

チーム」を結成。その座長、古屋圭司氏らが国会で、なぜ親北団体に多額の献金を行ったのか、菅氏を追及した。これに対し、菅氏は「連携・支援の強化のため」とするだけで、詳しい経緯などは明らかにしていない。献金の狙いが「連携・支援」という菅氏の説明がその通りだったとしても大問題だ。親北団体と連携し、それを支援する政党が日本にあり、しかもその政党が現在、政権党となれば、看過できない重大疑惑だ。

古屋氏らの調査では、人とカネの面で「市民の党」と関係のある民主党国会議員は菅氏一人ではない。献金したり、寄

付を受けたりしたのは10人を超える。「市民の党」関係者を自分の政治団体の責任者や公設秘書にした国会議員も7人いる。

民主党国会議員から「市民の党」側への寄付の総額は約1億5千万円にも上っているが、その中には鳩山由紀夫元首相や保守派の政治家として知られる鷺尾英一郎・衆議院議員の名前もある。

鷺尾氏が「チャンネル桜」などの取材に対する説明では、「郵政選挙」と言われた平成17年の衆議院総選挙に初出馬した際、父親の友人の紹介で選挙運動を手伝ってもらったのが酒井氏のグループ。当選したあとは、酒井氏の売り込みもあって、同氏の素性を知らないまま公設第一秘書として雇ったという。

ところが、酒井氏は無断で、関連の政治団体を立ち上げ、そこから「市民の党」側に献金していた。この事実が気付いたため、鷺尾氏は政治団体を解散させ、酒井氏も解雇したというのだ。

これが事実だとすれば、鷺尾氏は酒井氏に手玉に取られただけの話だ。しかし、ここには見過ごせない問題もある。鷺尾

氏は北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会の理事を務めており、拉致問題についての重要情報が酒井氏を通じて北朝鮮に漏れたのではないかと、この疑惑が持たれていることだ。そうした事実があったのか、どうかについては、警察当局の捜査でも行われないうえ、解明は困難だろうが、状況からしてあり得ない話ではない。

鷺尾氏側からの献金は、酒井氏の独断だったすれば、同氏は被害者の面もあるわけだが、菅氏の場合はそうはいかない。田宮元リーダーが寄稿した「市民の党」の事実上の機関紙には、菅氏も寄稿していたことが分かっている。そればかりか、菅氏とは古くからの付き合いがある、と酒井氏が周囲に語っていたとの情報も伝わっている。それが事実だとすれば、菅氏と「市民の党」の関わりは確信的なものということになる。

この疑惑は、首相を辞任すれば終わり、というのではなく、国会は菅氏を証人喚問してでも解明すべき問題である。

菅氏の危険人物との関わりは、ほかにもある。菅政権が「脱原発」に本格的に

親北団体との深い関わりがあったとされる菅前首相



動き出した裏にも、極左組織と関わりのある人物の影がちらつく。脱原発派のイタリア人弁護士で、同国の極左テロ組織「赤い旅団」のメンバーを弁護したと言

われる人物だ。今年6月末、この人物は東京・六本木のイタリアレストランで菅氏と会い、「日本の技術力があれば、脱原発でも電力不足を跳ね返せる」（日経新聞7月10日付）と説いたのだという。

政権の末期、政権の延命のためには手段を選ばず、「ペテン師」とまで言われた菅氏。「政治的な信念がなく、あるのは自己中心的な権力欲だけ」というのもつばらの人物評だから、北朝鮮や極左テロ組織と関わりある人物だとしても、自己の政治的な野心達成に利用できると思えば、関係を持つことがあっても不思議ではない。

だが、すでに指摘したように、複数の民主党国会議員から「市民の党」側に寄付された額が総計1億5千万円に上るとすれば、反日団体との連携は菅氏の個人的な資質を超えた、もっと根の深い問題だ。民主党が「市民の党」の資金集めに積極的に協力したのか、または利用され

たのか。まだ不明な部分が多いが、民主党自体に反日団体と関係を持つことも厭わない党の体質が浮かびあがるのである。

事実、菅政権の官房長官だった枝野幸男氏は、極左の革マル派が浸透するJR東労組やJR総連から献金を受けるなど関係を持っているとして国会で問題となったことがある。しかも、民主党は昨年夏の参議院選の比例代表候補として、JR総連の組織内候補でJR総連政策調査部長、JR東労組中央本部政策調査部長などを歴任した田城郁氏を公認し、当選させている。

〔JR総連やJR東労組内には〕影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」

昨年春、自民党・佐藤勉衆議院議員が提出した質問主意書に対する政府答弁書だ。民主党政府が暴力集団革マル派が浸透していると認める労働組合の組織内候補を公認するのだから、民主党は組織票があり、当選する可能性が高いと見込めば誰でも公認する政党だと言われても弁明できないだろう。

今年7月、天皇・皇后両陛下がご臨席の上で開催された日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念祝賀式典を欠席している。そんな菅氏が皇室

を大切にすると綱領で謳う政党に所属していたのだから、同氏の節操なき政治姿勢が分かるというものだ。

菅氏らと壇上に並んだ横路孝弘、岡崎トミ子の両氏は日本社会党出身（岡崎氏は結党直前は社会民主黨所屬）、鳩山邦夫氏は新自由クラブから自民党、新進党などを渡り歩いて民主党に参加した。このほか、所属議員は民主党に参加するまでの政党遍歴は実に多彩である。

つまり、民主党は政治理念を中心に志を同じくする政治家が集まって誕生した政党ではないのである。自民党から社会党までの流れをくむ、つまり右から左まで集まって、数集めのためにできたのが民主党である。同じ志があるとすれば、それは自民党からの政権奪取だけということになる。

「政権交代」のための数集めという民主党の体質は「民主主義は選挙がすべて」あるいは「民主主義は数」とたびたび公

では、民主党はなぜ、親北団体や極左暴力集団とも関係も持つという「闇」を抱えるのか。その根は党の誕生それ自体にある。

「選挙互助会」「理念なき野合」——。これは旧民主党の誕生当初から言われ続けた言葉だ。選挙互助会とは、選挙基盤の弱い小政党や無所属の政治家が選挙を有利に戦うために結成する政党のこと。1選挙区から1人を選出する小選挙区制になると、小政党や無所属での出馬では当選が難しいので、政治理念を棚上げにした政党の結成が見られるが、選挙互助会という言葉には「野合」の侮蔑の意味が込められている。

民主党における選挙互助会の体質は、平成8年8月に行われた旧民主党結党大会の壇上で、手を取り合った政治家の顔ぶれにも表れている。代表となった鳩山由紀夫と菅直人の両氏は新党さきかけ出身だが、その以前はそれぞれ自民党と社会民主連合に所属していた。新党さきかけの綱領には、日本の伝統と文化の象徴である皇室を尊重するとあったが、菅氏は国旗・国歌法に反対しただけでなく、

言する小沢一郎氏率いる自由党と合併してできた現在の民主党になって、さらに強まったと言える。

共産主義に反対する宗教団体の支持を得る政治家がいると思えば、日教組をはじめとした労働組合出身の政治家もいる。また、外交面では親米派もいれば親中派もいる。古い自民党的な「政治とカネ」の体質を色濃く持つ政治家もいれば、共産主義イデオロギーに真つ赤に染まった、共産党よりも左の政治家も抱えるのが民主党なのである。

民主党には党の憲法とも言える綱領がないが、政治信条のまったく違った政治家が集まった政党に、すべての党員が納得する綱領を作れるはずがないのである。菅政権では、首相の場当たり的であるの場しのぎの発言や政策は批判を浴びたが、理念なき政治は右から左まで「何でもあり」の民主党体質と無関係ではない。

2年前の政権交代の実現までは、政権交代そのものが党の求心力となっていた。しかし、政権交代後は求心力が消え、同じ政治信条をもつ勢力ごとのバラバラの遠心力が働き、政党の体を失っている

のが民主党だ。その一方で選択的夫婦別姓、外国人参政権、人権侵害救済法などの左翼的な政策の実現に向けての動きが本格化するの、民主党内の左翼勢力が実権を握りつつある証拠である。

夫婦別姓は家庭を、外国人参政権は国家を破壊する。人権侵害救済法は言論弾圧につながる。すべて国益を損なう反日的な法案である。そんな中で、浮上したのが菅氏をはじめとした親北団体や極左暴力集団と関係を持つ政治家の存在だ。

民主党が選挙互助会から、真の政権党に脱皮して、その責任を果たせるかどうか。それには、野田首相が親北団体や極左過激派などの反日団体との関係を明らかにするとともに、その関係を断ち切るができるかどうかにかかっている。大震災からの復興をはじめ、現在の日本には内政、経済、外交のあらゆる面で難しい課題が山積する。これらの課題に取り組む上で欠かせないのが、政治に対する国民の信頼回復だ。民主党と反日団体との関係清算は、野田首相が菅政権で失った国民の信頼を回復する上で、避けては通れない課題である。

## タクシン元首相が来日講演

# 日本とタイ、ともに5年で6人の首相

# これ以上、首相を多く作るな

8月下旬に来日したタイのタクシン元首相は、日本とタイについて語り「タイの首相はこの5年で6人の首相が誕生した。日本もまもなく6人目の首相が誕生する。日本もタイも、これ以上あまり首相を多く作るべきではないと思う」と述べた。

前置きした上で「結局、経済というのは底辺から動かさないといけない。富裕層はただお金を溜め込むだけだが、貧しい人は消費に回すから経済が回りだす。経済を牽引するには、トップダウンでは不可能だ」と述べた。

## 「タイの正義を取り戻す」と復権にも意欲

東京・神田の学士会館で「今後のタイ情勢について」と題して講演したタクシン元首相は、日本とタイの類似点を強調した。

タクシン元首相は「金融面においてどちらも流動性は高いものの、貸し渋り問

題が起きている。銀行はローンを出して不良債権になるのが怖いからだ。金融と経済というのは、卵と鶏との関係に似ている。銀行は経済成長してくればローンを出せると言うし、企業はローンを出してくれないと成長できないと言う」と

なお、タクシン支持派のタイ貢献党が今回の総選挙で圧勝したのは、国民にタクシン政権時代の郷愁があったからだ。「タクシン時代は、ワイロを払わなくても、商売ができた」と、庶民は、一定の評価をしている。これこそがタクシン人気の源だ。タクシンが警察に賄賂を払わなくても、自由にバイクタクシーをできるようにしたし、貧しい人も30パーツ(約



8月23日、東京神田の学士会館で講演するタクシン元首相

80円)で医療が受けられるようにした。タイ新政権は、最低賃金を255パーツから300パーツに引き上げる方針だ。

さらにタクシン元首相は、タイ日関係の実質的な強化を提言した。日本はエレクトロニクスで韓国に、自動車では中国の追い上げを受けている。だが、「アジアのデトロイト」と言われるほどタイの自動車産業集積は進んでいる。タイと組むことで、廉価で質の高い自動車を生産できるとして、ソフトを含めた日本からの技術移転で、日本の競争力を維持できると提案すると同時に、本格的な日タイEPA強化に率直な期待を表明した。

また政治に関して「タイの首相はこの5年で6人の首相が誕生した。日本もまもなく6人目の首相が誕生する。日本もタイも、これ以上あまり首相を多く作るべきではないと思う」と述べると、会場は笑いに包まれた。

そしてフロアから「タイに帰ったら、

政治家になるのか財界人になるのか」との質問に対し、タクシン元首相は帰国できれば教鞭をとりたい。政治は十分やった。ただ、自分は(クーデターで)不正に処分された。正義を取り戻したいと思う」と述べた。

発言を額面通り受け止めれば、しおらしい枯れたタクシン氏の帰国後の教鞭生活を描くことになるのだが、過去の言動を振り返れば、とてもおとなしく老後を教壇で過ごすなどは考えられないのが実情だ。

何よりタクシン元首相の「政治における執念」は半端ではない。

これまでタイではクーデターが起きても「なーなー」の世界があったものだ。1991年に起きたクーデターでも、チャチャイ首相(当時)はクーデター発生から2週間、自宅軟禁こそ余儀なくさせられるが、その後は軟禁を解かれ政界復帰を果たしている。本来、タイでは政権交代が起こっても、韓国のような前政権の徹底攻撃は皆無だった。それはクーデターによる政権打倒時でもそうだったのだ。

そうした「武士の情け」にも似たタイの良き伝統ともいえる「政治的許容度」が、タクシン元首相に限っては皆無に等しかった。タクシン氏の財産が没収されただけでなく、タクシン派政党の愛国党には解党命令が出された。さらに、近代法に抵触する事後法を適用してまで、5年間におよぶ同党幹部111人の被選挙権剥奪処分が下されてもきた。

こうした徹底した「村八分」方針に、タクシン氏は不正と感じ、「タイの正義を取り戻す」情念を燃やしてきたのだ。しかも、その情念は暗殺の危険など覚悟の上だ。タクシン氏は「魂となっても戦う」と述べ、愛するポチャマン夫人を離縁してまで、政治活動継続のための原資となる財産を確保してきた。そうした経緯からして、リップサービスとしての「教壇生活」はあっても、最後まで政治活動を貫く方針だ。

ただ政治家としてのキャリアは十分積んできたものの、東南アジアの分断工作に入っている中国への警戒心は薄いことが気になり、安全保障面での対応にやや不安が残る。

## 衆議院議員 木村太郎氏に聞く

## 東日本大震災、犠牲者少なかった青森県東部

## 生かされたチリ沖地震の教訓

半年前の東日本大震災では、太平洋に面した青森県東部でも大きな物的被害を出しながら、人的被害は極端に少なかった。それはチリ沖地震を教訓に、避難対策を強化していたためだった。だから青森沿岸部でも8〜9メートル級の津波が襲ってきたものの、対象の沿岸住民は、水際だった山間部への避難で多くの人命が守られた経緯があるという。「青森のプライド」を持論とする衆議院議員・木村太郎氏に聞いた。

りませんでした。

ただ、この大震災はいろいろなことを考えさせられ、また感じさせてくれました。それはむしろ、否も応もないところで、ということなのですが…。

例えば、青森県内の死者数ですが、太平洋側沿岸の地域を擁しているにも拘わらず、この数は決して多いとは言えません。岩手県や宮城県、福島県との比較は意味のないことですが、あれだけの大地震で、被災地といわれる地域を抱えている、この数字はある意味考えさせられるところがあるのです。

それは、2010年に起きたチリ沖地震（※チリ沖地震は数度起きています。10

## 北前船の径路で被災地に燃料補給

まずは、東日本大震災の被災者の皆さんに心からのお見舞いとお悔やみを申し上げます。

——青森県弘前市を中心にした地域が選挙区ですね。（選挙区は）同じ青森県でも、

震災の影響は比較的小なかったようですね？  
そうです。

（青森）県内でも、八戸市を中心とした太平洋沿岸部は、誠に残念ながら、死者3名を出してしまいました（※取材時現在）。私の選挙区、青森4区は、日本海側ですから、震災の影響は大きくはあ



【プロフィール】きむら たろう

昭和40年、青森県南津軽郡藤崎町に生まれる。59年、弘前南高等学校卒業。同年、田中角栄元総理邸書生。63年、東洋大学法学部法律学科卒業。平成元年、三塚博元外務大臣秘書。平成3年、青森県議会議員初当選。8年、衆議院議員初当選。14年、防衛庁長官政務官。15年、農林水産大臣政務官。17年、防衛庁副長官。20年、自民党幹事長。22年、自民党青森県連会長。

年の時の地震は、2月27日に発生。この

時は、地震・津波による犠牲者は出なかった。チリ沖地震で、特に大きかったのは、1960年（昭和35年）5月22日に発生したもので、この時は、東北太平洋沿岸部で、大きな被害が出ている）から引き継がれていた「教訓」なのです。あの地震でも津波は発生しました、ええ、やは

り太平洋沿岸部です。

あの地震の時に、青森県はこれまで以上の地震と津波への対策、特に避難という意味での対策を徹底的に立てたのです。

その対策が、今回の地震では大変、役立ちました。青森の沿岸部でも8〜9メートル級の津波が襲ってきましたが、

（津波が）襲来してきたときには、すでに対象の沿岸住民は、非常に手際よく山間部に避難しました。それは水際だった避難だったと聞いています。

私は震災後、現地を視察いたしました。我が国有数の漁港である八戸港は、確かに甚大な被害を受けていました。

『ああ、これは震災前の平常に立ち直るまでに相当な時間が必要であろう』。私は大きな暁光の中でため息と共にさらに大きな被害状況を眺めたものです。

しかし、そんな物的な被害が出ながら、被害者数は最小限ともいえる数値でした。これは、間違いなく過去の教訓が生かされたものだと言いたのです。この地震・津波に対する避難の状況は、間違いなく青森県が誇っている「プライド」だと感じています。

もうひとつ。今回、被災地においてまだ燃料が不足していた時期に、日本海側から鉄道で（燃料を）運搬しましたね（※JR羽越線、奥羽線を経由してタンク車で燃料を運んだ）。

これは江戸時代に盛んだった北前船が取っていた径路なんですね。当時、多く

の物資はこの北前船の径路で遠く都に運ばれていました。この径路はいわば「我が選挙区」に、物資だけでなく、文化やあるいは考え方ももたらせた、とても重要な「道」なのです。供給されるだけでなく、こちらの文化、物資を供給していたわけで、いわば「我が選挙区」における物質的、あるいは精神的な支柱もあるのですね、この「道」は。それは、やはり「ブライド」なんです。

この「ブライド」は、文字通り「我が選挙区」の真ん中を貫いています。そこを今回、いち早く開き、そして実際に使って、被災地に燃料を運んだ。ここでも、「我が選挙区」の「ブライド」がクローズアップされた。大きな感慨です。

——災害に対する対処、あるいは、何世紀も前に先人たちによって開かれた「道」というのも、地域の「ブライド」まで昇華できるものなのですね。このことは、行政という局面においては、今後につなげる大きな「教訓」ですね。新しい目を開かされた思いです。

さて、「我が選挙区」青森4区ですが、具体的な地域について改めてお聞かせください。農業の将来の指針が、世界一の津軽のリンゴにあるということですね。

リンゴの栽培というのは、いろいろな方面にとっても興味深い影響をもたらせています。その一例が、弘前城の桜にあるのですね。

弘前城の桜というのは、4月下旬から5月上旬が見頃ですが、私から言わせれば、この桜は日本一なんです。いや、まさしく日本一なんです。それは百聞は一見にしかず、ですが、桜日本一ということ、すなわちこれも世界一、ということになるわけです(笑)。

桜の花の付きが最も多いのが、我が弘前城の桜なんです。それは実に濃いのです、花が。満開ともなれば、もうそれは桜色のドームがそこにあるようなのです。

何故、このような日本一、いや世界一の桜となったのか。この桜の剪定をはじめとした管理に、実はリンゴのそれを応用したのだそうです。リンゴの木の剪定方法を桜に応用した、ということですね。それで、見事な桜となったのです。

私はこの文化の継承にいつも感動する

だ。

弘前市を中心とした、いわゆる津軽地域一帯が我が選挙区、ということになります。

主な都市を挙げますと、黒石市、平川市、つがる市、鱈ヶ沢市、深浦町、大鰐町、藤崎町、田舎館村、浪岡町、こんなところですね。実は青森市の一部も、我が選挙区に入っているのです。

——どのような地域なのですか？

弘前というのは、青森県における教育の都、さらには軍都なんです。青森県の国立大学弘前大学、また陸上自衛隊第九師団があります。(※新田次郎原作『八甲田山 死の彷徨』でつとに有名な、八甲田山雪中行軍遭難事件は、現在のこの師団である。当時は日本陸軍第八師団であった。弘前ルートは、遭難しなかったが、八戸ルートを取った部隊は壊滅的な遭難となってしまった)

また、農業は実はかなり盛んで、「やませ(山背)」(※春から秋にかけて北東北を中心に吹く、冷たく湿度の高い風のことをこう呼ぶ。東風である。場所に よって、この風を悪影響としたり、また

のです。桜のドームの下に佇み、我が選挙区の誇り、リンゴに思いを馳せる、私の春の至福の時間です。

——そこには、二つの「世界一」の融合があつて、それがやはり、選挙区の誇りとなっている。その下に佇む。それは確かに至福のお時間でしょうね。羨ましい限りです。

世界一の幸せ者ですね、私は(笑)。もうひとつ。やはり我が選挙区は、四季がハッキリしていて、それぞれいい場所、いい環境、いい空気が流れているのです。もうそれは枚挙に暇がありません。

先ほども申し上げましたが、何だか津軽地方というと、ヒット曲のイメージか、あるいはテレビドラマの影響か、どうも暗い、というか、終焉とでもいうようなイメージができあがっているようで、なんとも歯痒いのです。荒れた海の岸壁に一人ポツンと立っている恋に破れた女(苦笑)。いやいや、そんなじゃないんです、我が選挙区は。鮮やかな色に満ちた、とても明るい地域なのです。文化的な水準も高い。古い歴史の上に築か

正反対に、宝風などと呼ぶところもある。

太平洋側は前者だが、日本海側は、この風を利用した農作物の栽培をする地域もあつて、「やませ」に対する印象は地域によって様々なようである。筆者注)を利用した畑作などは、様々な色のいい作物を育んできました。本州最北部ということ、ただ極寒、荒れたグレーの日本海だけ、というようなイメージを抱く方もいらつしやいますが、そこは実のところ、農作物の収穫品ひとつとっても、色とりどりなのです。

——もっとも、ことリンゴに関しては日本一、いや、世界一の地域として自他とも認められていますね。

これはもう、説明の要なし(笑)。津軽のリンゴは世界一です。ことリンゴにおいては、積極的に輸出もしていますし、受け入れる国々では、超がつくほどの高級品として丁重に扱われています。ここには、これからの我が国が目指していくべき「攻めの農業」が具現化されています。アイテムごとに、この「攻めの農業」が確立されていけば、我が国の農業もグンとステップアップしていくはず。

私は、この明るい地域をこれからもっともつとアピールしていきたいと思つているのです。選挙区の代表として。

——津軽に対する意に添わないイメージを大いに変えて下さい。そこで、気になるのは選挙区のお薦めのスポットは、どこ？ ということですが。

日本キャニオン(深浦町松神)と呼ばれる景勝地、その中にある十二湖、世界遺産に指定されて一躍有名になった白神山地の中にある暗門の滝(中津軽郡西目屋村)。(※写真参照)。先ほど枚挙に暇がない、と申しましたが、その通りでしょうか？ これらのスポットはまた四季それぞれに、いい表情を見せてくれます。弘前市にある最勝寺は、実は私のパワースポットなんです。しだれ桜に五重塔。ここはいい。私は原点に立ち返りたいときに、ここに一人で立ち寄ります。ええ、誰にも言わないでね(笑)。そして、じつと耳を澄ますのです。自分のやるべきことが、ふわっと頭の中に浮かんでくるのです。不思議なことに。静謐ない場所です。

暗門の滝



それから、弘前市には、禅林街（同市西茂森町）という、寺が林立する路地があります。ここも素晴らしいパワースポットです。特に長勝寺というお寺から臨むこの街は、京都あたりにも負けない古都の佇まいを体感できます。こんなところが、実は目白押しなんです。ああ、自分だけのものにしておきたい、というジレンマが出てきますね（笑）、おいそ

れと、教えたくないという…。冗談ですが（爆笑）。  
——とてもあでやかな色で満たされた選挙区ですね。議員がそんな誇るべき選挙区から政治家として立ったわけですが、国政で何をしていくのですか？ 政治家としての原点をお聞かせ下さい。  
私は（政治家となった）最初から買っているのです。

『故郷を豊かにしたい』、ということ。

我が選挙区、我が青森県は、いわゆる出稼ぎ世帯が一番多い地域なのです。私自身、子供の頃から、そんな出稼ぎに行く父親がいる家庭を見ました。私も少なからず出稼ぎに行く父親を持つ友達がいきました。その家族そのものが私の原点なのです。これがわが故郷の現実でした。スタッドレスタイヤを履いた車が当たり前。これも現実です。これらすべてが、私にとっては愛おしい。しかし、それだけでなく、その愛おしさに少しでも豊かさをもたらされれば！。

私は、そんな愛おしい故郷を豊かにしたい、それが私の使命と思うようになりました。おこがましいとの誹りは受けるかもしれませんが、私は故郷に豊かさをもたらせる仕事をしたい。

それが私の政治家としての原点となり、もちろん、これから先もずっと持ち続ける理念なのです。

——選挙区が持つ「プライド」を常に携え、これからも頑張ってください。今日はありがとうございました。

シンポジウム

## 東日本大震災から半年

# E U型システムの構築を

## 仙台 東北第一次産業復興支援集会

東日本大震災からまもなく半年を迎えるが、中長期にわたる各地域ごとの復興再生プランははまだ作成されていない。こうした中、学識経験者や官僚OBらでつくる国家ビジョン研究会（東京、中西真彦代表世話人）による「東北の農業・林業・水産業復興支援集会」が8月6日に、仙台市青葉区の市民会館で開かれ、1次産業の専門家や被災自治体の首長らによる活発な意見交換が行なわれた。東北地方は、第1次産業である農業・林業・水産業が占める割合が大きい。パネルディスカッションで、司会の本間正義東大教授が「共通であるのは、日本が資源を有効活用していないことだ。他の先進国にいかにも遅れをとっていることか」と総括した。専門家らの意見、提案を集約すれば、欧米など先進国のノウハウに学ぶこと、ヨーロッパ型のシステム構築が必要ということになる。（肩書きは8月6日現在）

集会は冒頭で、平野達男復興担当大臣 はないか。国として規制緩和や手続きの活のパターンも大きく変わってくるので 述べて。

### 循環型社会に転換が

### 日本の生きる道

篠原孝・農林水産副大臣

篠原孝・農林水産副大臣は、今後の方向性を次のように展望した。

「循環型社会に転換するのが日本の生きる道だ。エネルギーが石炭から石油に代わってから、日本は外国依存型構造経済になった。日本には石油も鉱石もないが、雨がよく降り、豊かな森林をもち、1年中太陽の光に恵まれている。太陽エネルギー、地熱、風力、森林資源などをベースにしたイノベーションをもてば石油の海外依存も不要になる。」



大臣副大臣 水産農林省 篠原

今、求められるのは自立のための商品・事業開発だ。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）は日本にいらぬ。自由貿

### 農地が狭い三陸 百姓再生が必要

大泉一貫・宮城大学副学長

パネリストの一人、大泉一貫・宮城大学副学長は、農業グローバル化のビジョンについて、こう描いた。

「東北の1次産業は辺境に属している。過疎が進み、人口が減少している。1次産業GDPも減少している。『辺境』から世界の中心になるようなビジョンが必要。農業は成長産業であり、財政支援と融通性のある制度を抜本的に講じ、大胆

易でないから日本が停滞しているのではない。魚は獲れるし、農業は平地で規模を拡大すればいい。住居は高台につくる。原発の問題にきちんと対処していけば、東北は日本人の心のふるさとにできると思っている」

農業については、大規模化により国際競争力のある食料基地としての農業を構築し、全国のモデル的な農業経営の突破口とすることが求められている。

な計画理論をつくる必要がある。

ノウハウは海外に求めるべきだ。オランダ、ノルウェー、デンマーク、ドイツなどは今、1次産業の輸出国になっている。オランダは九州くらいの国土なのに



大泉宮城大学副学長

もある。

三陸地方は農地が狭い。事業者が一つの産業だけに特化するのではなく、多様な事業を対象にした方がいい。昔の百姓再生が必要だ。震災特区で規制緩和して、農業もやれるようにすべきだろう」。

今回の震災で、山間の林業はあまり影響を受けなかった。山林の手薄な手入れが問題になっているが、日本の森林蓄積は、1951年の17億立方メートルから2004年の60億立方メートルへと、今や世界でも有数の資源量となっている。大きなビジネスチャンスがあることが指摘された。

### 東北を木材自給率の先進地域に

皆川芳嗣・林野庁長官

皆川芳嗣・林野庁長官は「毎年、日本の木材の消費量を上回る成長量がある。とくに東北は非常にポテンシャルの高い森林資源に恵まれている」とした上で、さらに次のように語る。

「林野庁では木材の自給率を10年間で



皆川林野庁長官

50%に上げていく計画だ。その先進地域が東北だ。復興需要に対応した木材の安定供給を図っていく。東北は木造家屋の比率が高い。今回、一部損壊を含めて60万戸が被災した。復興住宅、公共建築物については、木材を使っていこうという法律ができた。海岸林の再生も含め非常に大きな雇用創出力がある。

各地域の膨大な木質のがれきも、有用活用すべきだ。中央統制型の電力でなく地域分散型も考えるべきで、木質バイオマスによる熱電供給システムを考えるべきだ。お金が地場に落ち、それがまた新しい需要を生んでいく。農業用の加温に使った重油だけで300億円の負担がある。それがバイオのタワーに変わっていくのか、（木質バイオマス活用で）地域

世界第2位の農産物の輸出国だ。デンマークでは、19世紀にナポレオン戦争の敗北以来、農業がほとんど壊滅してしまった。しかし今や酪農、畜産製品の大輸出国になっている。なぜグローバル化し得たのか。システムをつくる考え方が日本と根本的に違う。とくに可能性のあるのが仙台湾岸だ。オランダの大使と仙台空港周辺を見て回ったとき、彼は、アムステルダム郊外にそっくりだと言っていた。そこでは家族経営がいっぱいあり、ハウスが敷地を埋めている。採れた花が2日後にニューヨークスクエアの花市に並ぶ。IT化し、ロジスティクスをきっちり作り上げていった。それをここでできないのかと。

地権者が合意して土地が集積され、そこに国や県から巨額の投資がなされれば可能性はある。仙台市農協も大規模経営をやりたいと言い、財務大臣はプロジェクトをモデル事業としてやるんだたら予算は付けられる、と言っている。うまくいけば、上海とか大連とかに、宮城県産の花がどんどん行くようになる。仙台市ではハイポニカをやってみるという話

### 先進国でしか 成り立たない林業

梶山恵司・国家戦略室内閣審議官



梶山恵司・国家戦略室内閣審議官

梶山恵司・国家戦略室内閣審議官も「日本の（木材）自給率は2割。8割が外材だ。潜在的に国産の可能性は膨大だということだ。そこをいかに奪回していくか。日本のやり方は、基本的に大正時代と変わっていない。抜本的に変える必要がある」と指摘。

「ドイツでは森林面積は日本とほぼ同じだが、木材関連産業の雇用は100万

復興支援集会上に集まった平野復興担当大臣と被災地の市町村の首長たち



人を超える。産業論としては最大の規模になっている。世界の先進国の木材の生産量は、日本を除いて全て上昇している。製材・合板、住宅家具、最近ではエネルギー利用も拡大している。観光資源にもなっている。太陽光だ、何だといわれているが、一番可能性のあるのは木質資源だ。東北の数千人の町を見れば、エネルギーはほぼ自給できる。夢物語でも何でも無い。ヨーロッパでは当たり前前のことだ」と言う。

実際に、林業の育成に力を注ぎ、バイオマス発電を実現しているのが、日本製紙石巻工場のある石巻市だ。亀山紘市長は、次世代型

農業や海洋微生物による取り組みを紹介する中で、「製材の廃材を生かし、年間33万8500キロワットを生み出してきた」と紹介し、注目された。

しかし、これまでの経緯から、日本の林業再生は難しいという見方がある。これに対し梶山氏は「地形が急峻だからと言う。しかし、オーストリアも同じく急峻だが立派にやっております、しかも日本に輸出している。小規模所有というが、これも歴史の古い国であれば共通だ。賃金コストが高いというのはまったくの嘘だ。日本の現場は低賃金。ヨーロッパの方が高いし、林業を健全に行っている」と一つひとつ実例をあげて説明する。

もう一つ、日本の林業にとって有利なのは、林業が基本的に先進国でないと成り立たないという点だ。これについて梶山氏は「森林管理は高度な技術が必要だ。マーケティング、加工も単純ではない。法制度、人材育成などの社会システムも必要だ。森林を見ると、その国の文明のレベルが分かる」と言うのである。

今年度から「森林・林業再生プラン」が始まった。昨年、全林業界を巻き込んだ

で合意されたものだ。モデル事業で、短期間のうちに大きな成果を出すことが可能ということが実証されたもので、林業は真つ先に期待される産業といえよう。

一方、水産業は漁船、港、冷凍倉庫などが壊滅的な破壊を被った。抜本的な水産業の作り直し、人材育成、資源の枯渇の防止など、持続可能な水産業を確立し

ていく必要がある。

石巻商工会議所の阿部淳副会頭は「石巻には金華山沖という世界有数の漁場が目の前にある。200種類を超す魚が獲れる。魚という豊かな資源を供給することは、日本の水産業という観点からも非常に重要なテーマだ」と語る。

米国シアトルを根拠としてペーリング海やアラスカで20数年来、マダラを獲ってきた経験を持つ阿部氏は、ノルウエー、オランダ、フィンランドなどヨーロッパではクラスター、産業の集積があることを観察してきた。

「農業、漁業それらを取りまく環境、あるいは乳製品、船の修理、運輸、レストラン、ホテルさまざまなブドウの房のようなクラスターにつながっている。ノルウエーは、生産コストの面で比べると、日本の3分の1でやっている。緻密で勤勉な日本人だが、生産の効率という点では、欧米にまだまだかなわない。ヨーロッパ型のクラスター、食をとりまく先進的な産業整備を行うのが有望ではないか」と見る。

小松正之・政策研究大学院大学教授は

「三陸では現在、資源の悪化と乱獲が進んでいる」と次のように指摘した。

「漁獲高がピーク時の300万トンあったものが60万トンしかない。しかし、先進国ではむしろ伸びている。資源回復が大事だ。加工場も大きく減っている。獲った魚も加工工場がないと価値が半分以上3分の1に下がる。ただ東京の築地に素通りさせていたのでは、基本的な産業復興にならない。」

資源回復のためには、個別割当を導入して獲り分を決める。後継者がいなければ年金代わりに他の人に売ったり貸したりすることもできる。新潟では個別漁獲割当制度（IQ）を導入した。韓国でもIQ、個別譲渡性漁獲割当（ITQ）を導入して、230万トンから史上最高の漁獲高320万トンまで上げてきた。日本にもできると言うことだ」

小松教授によれば、後継者はピーク時と比べ岩手は2割、宮城が3割。震災後はさらに減って、岩手は半分、宮城は3分の1減った。「ノルウエーは、人口構成は若い人が半分、60歳までみると85%。日本は60歳以上が半分以上いる。」

阿部淳・石巻商工会議所副会頭（左から2人目）や溝畑宏・観光庁長官（左から3人目）など各界からの提言も



# 警視庁からのお知らせ!

## 3つのウソ電話に注意!

警察・金融庁・銀行協会・裁判所  
を名乗って

あなたの口座が使われ  
ました。  
キャッシュカードを預か  
ります。

信じていいかな?  
おかしいかな?

暗証番号は  
絶対他人に言わない

市・区役所、厚生労働省  
を名乗って

医療費が戻りますよ  
ATMに行ってください。

へえ、早くお金もらおう!

ATMで  
手続きすることは絶対がない

息子や孫のふりをして

携帯電話の番号が  
変わった。

すぐに元の電話に  
掛け直す

ウソの電話は、すぐ110番!

警 視 庁 

問題は収入だ。日本では沿岸漁業の所得が240万円。ノルウェーは500万円から800万円(円に換算)。継続するためには資源対策と合わせて行う必要がある」ことに触れた。

### 法人農家育成を

相馬市長

### 国は早く災害特区認定を

石巻市長

こうした諸提案に対し、各市町村の首長(代理を含め約20名が参加)の受け止めた方はさまざまである。いくつか紹介すると。



立谷秀清・相馬市長



亀山紘・石巻市長

「林業について検討してみたい。ハイポニカは初期投資がかかるので難しいが、法人農家を考えている」(立谷秀清・相馬市長)

「農地の大規模化とか経営形態の大きな変更が必要だろう。市町村として使え勝手のいい思い切った補正予算をできるだけ早く編成してほしい」(稲葉信義・仙台市副市長)。

「まだまだ復旧から復興へという段階にはきていない。国には早く災害特区の認定をしていただきたい」(亀山・石巻市長)

「農地の4分の1が海拔0メートル以下になった。農業の復興以前に地盤沈下をどうするのか。国で方向性を示してほしい」(井口経明・岩沼市長)

「宮城県や岩手県の復旧復興の話はともうらやましい。浪江町はゴーストタウンのようだ。町民のほとんどは失業状態。早めの目的が持てる状況をつくるのも行政の仕事ではないか」(上野晋平・浪江町副町長)



平野復興担当大臣

平野復興担当大臣は、集会前の各首長との意見交換会では、このように語っている。「9月上旬には一定のスケジュールを国の考えとして示していきたい。国でも今まで国交省が中心だったが、(各省による)1チーム10人くらいの支援チームをつくった。復興計画の策定にあたって積極的に活用していただきたい」国、県、市町村、住民の密接な連携による一日も早い復興再生プランの策定が待たれる。

# モラル喪失の行員、 金融円滑化法違反の可能性

## 中小企業に銀行恨み節

### 著しい行員の質低下

野田佳彦新首相は民主党代表選で「欧米の財政危機、それに進行する円高とわが国の中小企業を取り巻く環境は一段と悪化している。財務面での支援が引き続き必要」と述べた。

経営環境が悪化しても体力のある大手企業は何とか持ちこたえられるが、財務的余裕が乏しい中小企業は一時の早魘で一命を落としかねない。

2009年末に施行され今年3月に1年延長された中小企業金融円滑化法も、中小企業にとっては砂漠の中で出会った

オアシスにも匹敵するような慈雨と感じた経営者は少なくない。

ただ、景気が悪くなると、一番弱いところからやられていく。その意味では、とりわけ失業率が日本一高く、経済基盤の弱い沖縄は、日本経済の危機を警告する「カナリア」でもある。

炭鉱に置かれるカナリアは、酸欠や有毒ガス発生を知らせてくれる貴重な指標だ。沖縄経済こそは沖縄自身のためだけでなく、日本経済に対するメッセージを持っていくのだ。

その沖縄の中小企業を訪ね歩いた。どこも厳しい経営状況を訴えた。とりわけ苦情が多いのは、金融機関へのものだった。

「2年前、黒字体質に何とか持ち込むことができた。それで、返済猶予を要請すると、とたんに実抜計画（実行可能な抜本的計画）を持ち出し、大きな資本を注入するか、M&Aを選択するよう迫ってくる。」（A社）という。

A社にすれば、利益はあがるようになったのだから、30年、40年かかっても払うつもりなのにと性急な銀行の対応に戸惑っている。今時、金利だけでも支払ってれば中小企業としては優良の方なのだ。

企業は約定通り返済できなければ、延滞した債務には大体、年率14%前後の利息が加算される。放っておくと、あっという間に雪だるま方式で債務が膨れ上がって、身動きが取れなくなる。そして、メインバンクを中心としたバンクミールディングでとどめの宣言をされるのだ。

今はそれでも、金融円滑化法で守られている側面がある。だが、同法も両刃の剣だ。いわゆる同法が適用されなくなる来年4月以後を見越して、金融機関が今のように財務体質の弱い企業の強化に動こうとするからだ。

金融機関は、金融円滑化法適用以後、その反動がくると読んでいる。今のうちに財務体質強化のため、大きな資本注入が財務状況がいい同業種大手とのM&Aを実現することで、金融機関としてのリスクマネージメントをしたい意向だ。

またB社は「観光客を呼び込む施設を

作った。しかし、銀行が見るのは決算だけで、担保は見ない」としよげていた。

さらにC社は「融資部の20、30歳代の若造が、貸した金を返せと迫る。できなければ臨時再生法適用だという。いわば、小僧つ子が破綻を迫るのだ。これは銀行の質の問題だ。これでは街金融の取立て屋と変わらない。沖縄の行員のモラルは低い。上層部はこの実情を知っているのか」と悲憤慷慨する。C社は行員のモラルチェック機関創設の動きがあることに、諸手を挙げて賛成する。

これに対し、琉球銀行審査部の中川氏は「銀行が担保ではなく、決算を見るというのはあくまで基本であり前提となるものだ。要は企業として回っているかどうかが重要となるからだ。

返済猶予にしても、いろいろ手立てはある。闇雲にM&Aに追い込むようなことはしない。金融円滑化法ができ、またそれが延長されて、返済猶予申請が増えているのは事実だ。2倍ほどではないが、通年よりかなり増えている。もちろん、顧客が不快な思いをしないように、マナー教育には心がけている」と語った。

なお、銀行というのは、土砂降りの時に「傘を貸してきた」明治以来の古き良き伝統がある。

### 失ってはならないバンカー精神

自見金融相は先月、本誌とのインタビューで「銀行というのはバランスが大事故だ。貸し渋りにあつたり、貸しはがしが横行すると国家の経済自体が収縮してしまう」と大局観を述べた後、「中小企業には、いろいろ相談できるコンサルタント機能が必要となる。金融機関にはそのコンサルタント機能がある。金融機関というのは、いろんな企業の栄枯盛衰を見ているし、借り手が波をかぶれば一緒にその波をかぶる立場だ。金融円滑化法も、中小零細企業に対し、しっかりとコンサルタント機能を発揮していただきたいというのが法律を改正した主旨だ」と語った。

なるほどバンカーのバンカーたるゆえんはそこにある。金融機関は、あくまで地場企業を育て、そのパイを大きくしていくコンサルタント業を含めたバンカー精神をベースにしたものであるべきだ。



# 民主党

## 岡田克也幹事長 記者会見

8・11

### 【冒頭発言】

今日、ある朝刊を見て大変驚きましたが、何か特定の候補者のために私が（代表選挙を）急いでいるというような記事がありました。私は、そういう記事に対して極めて怒りを覚えずにはられません。

書くものは書き手の器に応じてしか書けないと、私は常に思っているわけですが、書く人のそういう考え方が反映された記事かなとは思いますが。そう思えば別に怒る必要はないのかもしれませんが、私はこの間、幹事長として、とにかく



岡田幹事長

認識をしていただいたうえで、ただ、私はある程度、有権者に訴える時間は必要ではないかと思っています。

そういうこともあって、なるべく早く成立させる必要があると。あまり窮屈になつてしまうと、やはりちよつと違和感がぬぐえなくなつてしまいますので。もちろん、出ようと思う人は、別に総理が辞めると言われなくても、それなりの活動はされていくのだと思いますし、メディアもそういうことで取り上げられる。そういう意味では、考え方を知る機会には十分にあるとは思いますが、あまり窮屈過ぎる日程はいかがなものかと思っております。

この国の政治を前に進めること、その一点で私なりに必死でやってまいりましたので、そのところを少しは理解していただきたいのと、あらためて感じております。

【記者】なるべく早く新体制にということだが、菅総理は今日の予算委員会で法案が成立したら速やかに代表選の手続に入りたいとおっしゃったが、幹事長としても、法案成立後すぐに、今国会中に、代表選挙を行うお考えか。

【幹事長】この国会中というのは、私もそういう思いですが、しかし、いつ法案が成立するかということは、まだ確定的なことは申し上げられません。最悪、この国会で成立しないことだつてあり得るわけなので、なるべく早く、しっかりとこの国会で成立させることに全力を挙げたいと思います。

成立すれば、それは時間を置く必要はありませんから、直ちに代表選挙の手続

【記者】法案成立後、総理の退陣表明を受けて直ちに代表選の手続きに入るということだが、首班指名まで今国会中にやるお考えか。

【幹事長】そういうことも、いつ法案が成立するかにかかつてまいりますので、今、一義的に言うことはできません。

ただ、先ほど申し上げたように、全体としていろいろなことを早めたい。その理由は先ほど申し上げたとおりでありますので、首班指名も含めて、それはなるべく速やかにやるのが、私は次の本格的な補正に取りかかるために望ましいことだと考えています。ただ、それがこの国会でできるかどうかは、法案の審議・成立状況にかかっているということです。

【記者】代表選から首班指名までの間に、ねじれ国会ということで、他党との協力関係を築くうえで交渉もある程度時間を置いたほうがいいという考えもある。その辺の時間の置き方についてのどのようにお考えか。

【幹事長】これは私が何か言う話ではありません。私が幹事長としてやらなければならぬことは、次の代表が決まる

きに入る。もちろん、総理のきちんとした表明を待つて、われわれ執行部としては代表選挙の手続きに入る、こういうことになります。

【記者】速やかに新代表を選びたいという意見と、政策論争をしつかりやるべきだという意見と、両方あると思うが、任期中で代表が代わった場合は告示日に代表を選ぶパターンが通例だが、今回もそれを踏襲するのか、それともしっかりと選挙期間をとつたうえで行うのか。

【幹事長】そのことは、まだ決めておりません。これから議論すればいいことです。

ただ、告示日に投票を行っているのは、とにかく候補者の締め切りをして、締め切つたうえで選挙になっているということであつて、告示日まで何も活動していないかといえば、その間、それぞれの候補者が活動しているわけですから。公職選挙法の適用はありませんから、告示かどうかというのはあまり重要な意味を持つわけではないんですね。そもそも「告示」ということが法律的な意味での告示ではありません。そういうことはよくご

まででありまして、その後は選ばれた代表を中心新しい執行部が、首班指名はいつがいいのか、あるいは組閣はいつがいいのかということは、新しい体制の中で決めいただくことであつて、私が自分の意見を言わないほうがいいと考えております。

【記者】昨年6月に菅さんが総理になつたときは、首班指名後に認証式まで4日間あり、そこは鳩山前内閣の職務執行内閣という位置づけだった。例えば今回も、その期間に野党と政策の話をするとか、そういう選択肢はとり得るか。

【幹事長】先ほどのお答えで尽きていると思います。いろいろなオプションがあると思いますが、それを決めるのは新しい執行部です。

【記者】今朝の読売新聞のインタビューで、幹事長は大連立にも言及しておいでだが、あらためて3党合意を踏まえて、新体制で野党とどのような協力関係を築いていくべきだとお考えか。

【幹事長】私が読売のインタビューで質問に答えたのは、もちろん国民新党が与党としてあるわけですが、それを踏ま

えたうえで、3党間でさまざまな信頼関係を築き上げていく、いろいろなる事案についてよく協議をしながら物事を進めていく、そういったことが積み重なれば、将来的に部分連立とか大連立がないとは言えないという事は申し上げたわけです。いずれにしても、それは結果論です。

【記者】 先日の3党幹事長の確認文書で、高校の授業料無償化や戸別所得補償について、政策の効果を検証した上で見直しを検討するという事で合意しているが……。

【幹事長】 「必要な見直しを検討する」ということです。

【記者】 すみません、そのように合意しているが、それに対して、マニフェストの見直しを批判するグループから幹事長のところに抗議文が出されたりしており、3党の合意を順守するかどうかと、マニフェストの見直し、次の代表選の争点として議論するテーマになってくるのか。

【幹事長】 私のところに抗議文って来ていますか。

【記者】 一新会の方たちが、直接のも

のではないけれども、マニフェストの見直しなどの幹事長の発言について……。【幹事長】 今回3党合意について抗議文って、私、現時点ではいただいております。

【記者】 そうした文書が来たか来なかったかは別にして、そうした3党の合意をしっかりと守る人が次の代表になるべきか。マニフェストの見直しをどうするかということについて、代表選の争点としてしっかり議論すべきかについて、いかがか。

【幹事長】 それは私が決めることではありません。ただ、3党で合意したことを破棄することになれば、それは3党との関係ももう一度、一から見直すことになります。私は基本的に幹事長として責任を持ってやっておりますので、政党間の合意というのは誰がトップになっても、幹事長になっても、基本的には引き継がれるものと考えております。

マニフェストについて、いろいろな議論は当然あっていいと思いますが、それは候補者がどういう主張をされるかにもよると思います。

選への出馬はどのようにお考えか。

【幹事長】 これは読売に書いてあるとおりです。そういう質問には、煩わしいから答えないことにしております。

【記者】 幹事長を1年経験した中で、自公との関係が大事だとおっしゃったが、昨日、谷垣自民党総裁が、代表選の候補者として名前が挙がっている野田財務大臣を評価する発言をされているが、こういった声が上がっていることはどの

ように受け止めているか。

【幹事長】 谷垣さんがどういう発言をしたのか私は承知しておりませんし、どう思うかと言われたのかもわかりません。そういったことにいちいちコメントはいたしません。単なるリップサービスかもしれないし、他の人に対してどういふ発言をされるのかもわかりません。

【記者】 1年幹事長をやられた経験から、自公との協力関係を築ける人がふさ

岡田幹事長のメディアに対する警戒感、不信感は非常に強いという印象だ。かつて何度も痛い目にあったことがあるとの趣旨の発言を聞いたことがあるが、記者会見の場でも時々聞かれた。8月11日の会見でも冒

頭から、「今日、ある朝刊を見て大変驚きました

者ム  
記コラ

# 最後までメディアにライオン

が、何か特定の候補者のために私が（代表選挙を）急いでいるというような記事がありました。私はそういう記事に対して極めて怒りを覚えずにはいられません」といった具合だ。

【記者】 今回の代表選では複数の議員が立候補する動きがある。これは最近の代表選では見られなかった特徴だと思うが、こうした議員の動きについてどうとらえているか。

【幹事長】 代表選について、個々の所属議員が候補者になるかならないか、そういうことについて私はコメントする立場にありません。

【記者】 複数の方が意欲を示しているが、次の代表・総理にはどのような方がふさわしいとお考えか。

【幹事長】 これも私が言うような話ではないと思うんですね。個々の有権者である所属議員が自ら考えて行動すべきことだと思います。ただ、幹事長を1年間やってきてその経験から申し上げますと、やはり物事を前に進めていくためには他党、特に自民党や公明党との協力には非常に重要である。そこがない場合には物事が前に進まないことは、経験から申し上げられると思います。

【記者】 岡田幹事長は、自公の幹事長との個人的な信頼は築かれているのではないかと思うが、幹事長自身は次の代表

わしいとおっしゃったが、菅総理は、自公との協力関係を築ける総理だったか。

【幹事長】 それはいろいろな評価がありますので、一言で言うことはできません。と思います。

それから、総理が代われれば劇的に変わると、中にはそういうご意見もあります。が、現実の政治は非常に厳しくて、トップが代わったから今までの関係が突然変わることはないかもしれない。

と不信感を丸出しに。伝聞という形であれ、事実を報道していないとして産経新聞を名指しで批判したこともあった。

岡田幹事長は「こう言うところ書かれるだろうから発言しない」といった趣

旨の発言をたびたびしてきたが、生来の慎重な性格をさらに意識して慎重にしているからだろう、ほぼ一年間の幹事長会見は「常識内のコメントばかりだった」（会見出席記者）。

政権も末期となってきた会見でもメディアに対して複雑な心境を吐露するの

大事なことは、日ごろの地道な努力。もちろん、私の経験でも両幹事長、井上さんや石原さんだけではなくて、他党も含めて数多くの皆さんと、何十回と足を運んでいろいろとお話をさせていただいた中で今日に至ったもので、やはりそういう大変なエネルギーと努力が、このねじれの中の与党執行部には求められると思います。

【記者】 足を運ぶ努力が必要だとおっ

しかったが、執行部としてその努力は十分だったとお考えか。

【幹事長】 私としては、できることはすべてやったと思っています。

【記者】 幹事長が3党合意を結ばれたこともあって、3次補正に向けた協調機運があると思うが、そうした中で今日の特例公債法の採決にあたって自民党の石破政調会長からかなり厳しい討論があった。こういった自民党の反応、石破政調

会長の討論などをどのように受け止めているか。

【幹事長】 自民党も大変厳しい中でご判断いただきました。私は本当にいろいろな幸運も重なり、大変な努力もあって、奇跡的に今回まとまったと思っておりますので、石破さんの厳しい状況の中でのご発言だと、謙虚に受け止めさせていただきたいと思います。

ように党内で議論してまとめていかれますか。

【政調会長】 17日に幹部会、通称十役会議を開催致しまして、幹事長も会見で申し上げたかと思いますが、大連立には反対であるという意見が大勢を占めております。

わが党において、両院議員懇談会とかで議論をすべきかどうかわかりませんが、大連立賛成という意見を私は聞いた事がございません。野田大臣は101回でもプロポーズしたいという事だそうですが、何のための大連立か、そして大連立の定義は何か、そして一昨年の政権選

## 自民党

### 石破茂政調会長、 記者会見

8・19

【記者】 民主党代表選を巡る議論で、大連立に関して野田大臣は賛成、馬淵議員は反対など様々な意見が出ていますが、自民党として代表選までの間にどの



自民党本部

り、その事に関する答えがないのです。ねじれの解消の為に大連立をしてくれという事なら、そのようにはつきりと言えれば良いことあります。

それと、総選挙の民意をどう考えるのか。総選挙の民意と違う大連立を組むとするならば、総選挙はいつ行われるのか。そして、一昨年のマニフェストを修正するということならば、マニフェストは有権者との契約であると言った事をどのよ

うに考えるのか。契約不履行ですから、民法でいうところの契約解除権が発生するわけで、つまり総選挙をもう一度しろという権利が主権者たる国民に発生するのです。

ただ、わが国の憲法にはそういう権利が与えられていないので、そのようなことをどう考えるかきちんと示してほしいのです。何が何でも大連立というのは、かなり不誠実であると思っております。連立をする、閣内に入るとなれば、行政権の行使につき一体として責任を負う事になるわけです。つまり国民に対して一体として責任を負うわけであり、政策協議なくして連立など絶対により得ないわけであります。財政政策、外交政策、安全保障政策、社会保障政策、さらには憲法等について何ら徹底した議論がありません。そのことについての見解を明らかにした上で大連立を論じてもらいたい。

政策協議なくして大連立はあり得ませんし、また総裁が仰るように政策のみならず、民主主義に関する考え方、政治手法を共有しない連立はありえず、私ども

択選挙において示された主権者の意思をどう考えるのかということについて何ら言及がない。とにかく大連立、大連立と言うことは、あえて言葉を選ばずに言うならば誠実性を欠くのではないか。

2年前の総選挙において、自公政権はだめだ、民主党を選んでくれ、いろんなマニフェストの政策を実行するのに16・8兆円かかるが、それは無駄をなくせばできるのだと、主権者に訴え、政権を取られたのであります。その主権者の意思を何ら問うことなく、政権の枠組みを変えろという事が、なにゆえ正当性を得られるのか。これは最も基本的なことであ

として例えば子ども手当、あるいは二次補正、さらにはエネルギー、公債特例法案等において三党協議を行い、それなりの成果を得、震災復興にも国政の遂行にも相当の成果を得ているわけで、なぜ今のスタイルでダメなのかという点についても、大連立を推奨される方は明らかにされる責任があると思っております。

【記者】 公明党の山口代表が、3次補正についての3党協議についても前向きな考えを述べているが、大連立云々ではなくて、政策協議を行う事の是非についてどうお考えですか。

【政調会長】 私は行うべきだと思っております。それをパースナル連合とかどうか、閣内に入るわけでもなく、閣外協力をするわけでもなく、個々の政策ごとに3党が協議を行い結論を出す。そして、結論を出した以上は衆参において責任を持つというあり方は私は評価されてしかるべきだと思います。当事者として、これは極めて有効であったと思っております。

公明党の山口代表が連立に賛成というのを聞いたことはございませんでした、

基本的には私が申し上げたことと相通じるものだと思っております。

【記者】 協議で物事が決められることとそうでない事があると思いますが、例えば外交等内閣の専権事項に関しては、閣内に入らない限りは党内の考えを反映させるのは難しいと思いますが、それについてどう思われますか。

【政調会長】 確かに外交権は内閣に属します、内閣の専権事項であります。し

かし、それを具現化するにあたっての条約、法律というものは国会においての議決を経ないと実行性を得ません。例えば、過去の事例で言いますと、インド洋の補給支援活動の継続について議論に上つていたとするならば、テロ特措法の延長なのか、あるいは新しい法律をつくるのかについて3党で協議をするというのはあり得ることだと考えます。

3党協議になじまない事項というのは実際あまりないのではないかと。例えば尖閣を巡る対応、中国漁船船長を逮捕し釈放したという一連の判断があったが、そのような事に関してはもちろん3党協議は行えないでしょう。ただ、外交・安全保障が条約、法律というものを含む場合は3党協議が排除されるものではないと考えます。

民主、自民・公明が大連立を形成する案は、3・11東日本大震災発生直後、盛んに言われたが、菅直人首相が延命にこだわったため消えた。ようやく菅首相が辞めるとなつて

岡田克也民主党幹事長や野田佳彦財務相から大連立の話が再

浮上したが、自民党としてはいまさらの感が極めて強い。

石破政調会長は「野田大臣は1001回でもプロポーズしたいという事だそうだが、何のための大連立か、そして大連立の定義は何か、そして一昨年の政権選択

者  
コラム

## パシシャル連合でも解散目指す

現実的には、石破氏が「個々の政策ごとに3党が協議を行

ならば誠実性を欠くのではないかと手厳しい。

「衆参ねじれ国会を円滑に運営したい」というのが与党・民主党のホンネなのだが、そこに自民党が大臣ポスト欲しさに安易に乗っかれば、国会が野党のチェッ

クのない大政翼賛会になってしまつて国民から批判されるのがオチだ。今も震災直後と同様、復旧・復興支援に全力を挙げなければならぬのは確か。だが、来るべき衆院総選挙を念頭に置けば、大連立構想は自民にとりマイナスだ。

いて」という中間報告をまとめて公表しておりました。これが、その後の検討の方向性ということになったわけですが、その後、さらにこの方向性を基本として創設する機関の組織・権限、救済手続の在り方等について、問題点の整理・検討を続けてまいりました。

さらに、この間、各方面の方々に様々な御意見をいただきました。そして、与党の民主党が、今年の3月に「人権侵害救済機関検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、6月9日にこのプロジェクトチームの検討結果を集約し、中間取りまとめとして政府に提言がございました。

このような御意見や御提言を踏まえ、法務省内でさらに検討を積み重ね、本日、政務三役による「基本方針」として公表することとしました。

新たな人権救済機関の設置について、いろんな議論がございましたが、できるだけ多くの方々の御理解をいただいで、歓迎される組織にしたいと努めた結果が、今日、公表した基本方針ということになったので、国民の皆様にも是非御理解をいただいで、これから実現に向けて



## 江田法務大臣 記者会見

8・2

【冒頭発言】 新しい人権救済機関の創設について御報告します。御承知のとおり、平成13年に人権擁護推進審議会の答申があり、平成14年に政府案が提出されましたが、これは廃案となりました。さらに、平成17年には民主党案が提出されましたが、これも廃案となっております。

その後、法務省としてもずっと検討してまいりましたが、政権交代後、やはり何としても新しい人権救済機関を作りたいということで、昨年6月22日には、これまでの検討状況を踏まえ、当時の政務三役が「新たな人権救済機関の設置につ

御協力を賜りたいと思っております。

【記者】 先ほどの人権救済機関の基本方針なんですが、議論の中で大臣御自身が重きを置かれたポイントですとか、今回の基本方針の中で、昨年の中間とりまとめからの変更、例えば内閣府の外局から法務省の外局に変更なんかしているわけですけども、そのポイントとはどういうところかということ、法案として国会に提出する時期についても見通しがあればお願いします。

【大臣】 私は、この人権救済機関の設置については随分長くかかわってまいりました。政府案が、参議院先議で出されていてこれをなんとか仕上げたいということ、民主党の考えはありますが、政府の案の方になるべく寄つた、そういう解決もやむを得ないのかと考えたこともありました。最終的にこれが廃案になつて、その後、政府の方から大変努力された方も大勢おられるんですが、難事を極めるという事態があつて、民主党としてはこういう考えだというもののかなり山盛りに盛り込んだという法案も出ます。こういう際に、私はだいたい責任者

をずっとやっておりました。

したがって、このシステムを何としても、とにかく生み出したいという思いが大変強く、今そうした機運も盛り上がってきていると思いますので、法務大臣としてとにかく作りたいたいことが第一でございます。国会の委員会などからも早く作れということも言われているので、生み出したい。そのためにはなるべく多くの皆さんが、100点満点と言えなくても、これなら納得できるかなと思えるものに、とにかくしなければ、一部の人のやったぞという思いだけで提案し、それでまた頓挫するというのでは困るので、いろいろ批判の御意見もあると思いますが、ああいう形にまとめたということでございます。

その中でも、特にここはしっかりとさせなきゃならんというのは、やはりパリ原則、政府からの独立ということでございますが、しかし、国家行政組織法3条機関として、人事その他について、政府から独立して権限が行使できるような、そういう姿のものにしたいということでは

ただ言葉でそう言うだけではいけませんので、関係の皆さんといろいろ相談をして、独立性をきっちり保てるものにしたし、さらにこれからもそういう独立性に十分配慮した制度設計をしていきたいと思っております。

民主党の元々の考え方は法務省ではなくて内閣府にということですが、内閣府にせよ法務省にせよ、いずれにしても政府からの独立性ということをどう制度的に仕組むのかということは変わらないので、内閣府におけば独立かということ、そんなことはありません。内閣府の言うとおりにしたのでは独立性がないわけですから、そこは法務省にはこれまでの人権行政のいろんな経験や知見の蓄積がありますから、法務省がまず生み出す。そこまでを法務省が引つ張っていつて作る。そして、作ったものを法務省が独立性を最大限保証しながら、大事に育てていくということにしたわけでございます。

時期については、今、政務三役の中間報告で全ての合意ということになって、ただ制度設計でいろいろ考えなければならぬことや、まだ細かく詰めなければ

ならないことがありますので、この中間報告を基に、法務省で制度設計をこれから具体化させてまいります。

これは、ぱつと鮮やかというわけにはなかなかいかないので、残念ですが確定的なことは申し上げられません。私としては、これはなるべく早くと思っておりますが、法案として仕上がるのに今年一杯は十分かかるのではなかと思いますが、急ぎます。

【記者】今の質問に関してですけど、今年一杯かかるということは、早くも来年の通常国会以降の提出になるとのお考えでしょうか。

【大臣】この秋から冬に臨時国会がどうかというのは常識的にはあるということですが、そこに提出できればそれはうれしんですけど、あまり雑な検討で出すわけにもいかないので、今年の臨時国会に間に合わせると言うのと、作業する人は頭を抱えてしまうでしょうね。

【記者】昨年の中間報告では、人権救済機関の設置場所を内閣府に設置することとありましたけど、今回は法務省というふうに明記されたわけですけど、方向

が変わってきた理由とか大臣が御判断された理由を改めてお聞かせ願います。

【大臣】人権救済機関の設置場所については、昨年の中間報告では内閣府も念頭に置いて検討するということだったと思いますが、内閣府ということは固定するというほどの書き方ではなくて、このときから既にいろんなバリエーションがあるということには念頭にあったわけでは

す。

政府案が法務省ということで、当時我々が参議院で議論しているときに、法務省にはいろいろな人権上の問題が指摘される、指摘されるから全て人権侵害をしているというわけじゃありませんが、刑務所とか入国管理局とかがあって、それと人権擁護と両方法務省というのは、なかなかすっと落ちないという感じもあ

りました。

よって内閣府という提案をしたのですが、内閣府にはそういうものがないのかというところもいろいろあるわけで、それならいつそのこと人事院のものにするかとか、しかし、それも憲法の制約とかいろいろありまして、これはずっと長い悩みであったわけです。

この日の記者会見の冒頭から、江田五月法相は、いっになく強い口調で人権救済機関の創設への決意を語った。もともと自民党時代に起案されたものだが、問題点があまりにも多く、新たな人権侵害を生み出す可能性が大きいとの理由から、保守系議員が猛烈に

者  
記  
コ  
ラ  
ム

## 性急な人権機関創設は厳禁

反対し廃案に追い込むことができた。

ところが、民主党議員の多くがこの問題に熱心で、政権の中核にあつて最も強い関心を示してきたのが千葉景子前法相と、江田法相だった。法相が「私はだい

たい責任者ですとやっておりました。したがって、このシステムを何としても、とにかく生み出したいという思いが大変強い、と語っていることからそれが分かる。

菅政権末期というスケジュール感からか、江田法相は、再び頓挫することがあつてはならないので「100点満点ではない」が、とにかく法案作りを急ぎたいという。そして、同法の成立後に、修正法

案を出して望みの内容に改めたいという狙いがあるのがうかがわれた。確かに、「まず成立ありき」であることから、さまざまな問題箇所のハードルは下げられた。救済機関に強制力を持たせず、調査拒否に対する罰則を外し、調査は任意とした。だが、人権擁護委員になれる資格を地方選挙権を持つ者と

しているが、将来的に民主党の基本政策との兼ね合いから、外国人の参加に道を開くことにならないか。人権侵害の定義もはっきりしていない。性急な創設は厳禁である。

# 松本剛明外相

## 記者会見



松本剛明外相

8・2

松本外相の記者会見で、決まって最初に質問する記者がいる。共同通信の斎藤記者だ。誰も質問しないと「質問が無ければ今日の会見はこれで終了します」とならざるを得ないので、場を持たせる意味でも貴重な存在である。この日、8月2日の外相会見も藩基文国連事務総長の訪日を松本外相がアナウンスしただけで、当面の案件もなく、質問が殺到する雰囲気ではなかった。

そうした中でやはり斎藤記者が質問のちろんこれまでの日米の協力と今後の日米の同盟のあり方、協力のあり方については、こういったハイレベルの会談や交流とか文書を発出するという機会にかかわらず、日頃から日米の間では緊密に議論をしてきていると考えておりまして、それを一つの形にまとめるのがそういった節目にあると思いますが、今実務的な作業で何らかの滞りがあるというようには私（大臣）の方には報告はきておりません。

外交も政治でありますから、もちろん両国とも内政の影響を、時間的制約であるとか政治的背景であるとかの影響を受けないことはないかというか、受けることがないと言ったりはあれだと思いませんけれど、外交においてはそういったことがある中でも両国間の関係を重視して進めていくことも重要なことであろうと思いますので、日米間ではそのことはよく理解をされて必要な協力は進められていると理解をしております。

◇  
ところが、この外相答弁が「首相進退、訪米調整に影響——外相」の見出しで、

口火を切った。質問のテーマは9月に予定されている日米首脳会談に向けての進捗状況だ。この頃、菅直人首相が元氣さをアピールし、巧みな駆け引きで退陣論が盛り上がるのを押さえ込み、9月以降も居座るのではないかと空気をさへ出始めている。

質問の趣旨は、内政のゴタゴタが外交に影響を与えてはいないか、という原則論だった。外相は、「実務的に停滞しているという報告は上がってきていない」と否定。ただ、最後の方で「外交も政治だから」という表現で、多少の影響があるかのようにぼかした言い方を付け加えたに過ぎなかった。言ってみれば、外相は、差しさわりの無い表現で質問をかわし、結局、インパクトの無い質問となつたという印象を与えた。以下がそのやりとりだ。

【共同通信 斎藤記者】 日米首脳会談の見通しについてお伺いしたいと思います。今日は8月2日、日米首脳会談が予定されているのが9月というように承知しております。日にちも若干迫ってきているというような印象も受けるのです

松本外相が「外交も政治だから、内政の影響を受けないことはない」と述べ、首相の進退時期が定まらないことが一定の影響を及ぼしていることを認めた、という形で報じられた。

これを受けるかのように、4日の参院外交防衛委員会で、松本外相は自民党から首相訪米の見通しについて執拗に詰め寄られ、「外交も政治だから、政治的背景とか時間的制約という意味で内政の影響を受けないか」と、それは必ずしも現実ではない」と、より明確に訪米日程に影響が出ていることを表明。これを受け、時事通信などは「首相訪米、先送り強まる——退陣定まらず外交停滞」との見出しで、米国をはじめ諸外国はすでに退陣を表明した菅首相をほとんど相手にしていないこと、日程を詰めようとしても米側がオバマ大統領の日程確保に応じないこと、などを報じた。

菅首相は、内政については、法案可決を条件に挙げるなどして、退陣引き延ばしの雰囲気醸成できた。しかし、重要な日米首脳外交の調整は、同じロジックで引き延ばせないタイムリミットになつて

が、現時点での日米首脳会談に向けた調整状況についてご説明願いたいと思っております。

【大臣】 5月の日米首脳会談において、9月の前半に総理が訪米をするというところで両首脳が一致をしたと承知をしております、その上で必要な作業は今実務的に進めてくれているものと思っております。

【共同通信 斎藤記者】 日米首脳会談で何か成果物を紙にまとめるというような考えが政権としてあるのかどうか、そして、申し上げるまでもなく菅総理について言えば、ご自身の進退というものが今後の外交日程ならず国内日程、いろいろなものに係わってくると思うのですが、この点の問題というものが日米間の事務調整に何らかの影響を与えているという側面はあるのかどうか、この二点をお願いします。

【大臣】 訪米の機会に日米同盟のビジョンを共同声明のような形で示すということでは一致をしているというように理解をいたしております、その内容であるとかそういったことについては、も

いることが明白となった——。菅首相が、8月半ば、急に潔く退陣を表明した理由に関し様々な憶測があるが、日米外交の停滞という現実により外堀を埋められ、退陣に踏み切ったと見ることができると

その意味で、斎藤記者の質問は、効果的な「蜂の一刺し」だったと言える。外相自ら、「首相の退陣引き延ばしで日米外交が停滞して困っている」と述べることはできない。記者から質問され、そういう状況を匂わすことで事実が広まっていく。こうした外交停滞を反映してか、松本外相の定例記者会見は、8月の第2・3週はお休みという異例の事態となっていた。

菅首相は8月24日、訪日したバイデン氏との会談で、自らの退陣により、オバマ大統領から招請された9月前半の米国公式訪問ができなくなったことを陳謝。

これまで、①6月の外務・防衛担当閣僚会合②夏のバイデン氏の訪日③9月前半の首相訪米——という段取りになっていた。だが、日米外交当局の日程調整が滞って訪米延期が決定的となり、首相は8月中の退陣を迫られた形だ。

## 南シナ海波高し

# 「核心的利益」として中国が内海化

## ASEAN、対中牽制力構築へ

今年10月にインドネシアの首都ジャカルタで開催される東アジア首脳会議（EAS）に、米露が初参加することになる。これでEASは東南アジア諸国連合（ASEAN）10カ国と日中韓豪印にニュージールランドの16カ国から18カ国に及び、中南米を除くアジア・太平洋地域の主要国首脳が揃（そろ）い踏みすることになる。ASEANの狙いは、経済力だけでなく軍事力増強著しい中国の野心を抑え込むカードを手に入れることだ。

### 10月開催の東アジア首脳会議

先だってジャカルタで開催されたASEAN首脳会議の議長声明には、EASの役割に関して「戦略的地政学上の問題

を論議する」と盛り込まれた。

狙いはずばり中国が昨年、南シナ海をチベットや新疆と同列の「核心的利益」

だと位置付けたことに対するけん制のメッセージだった。中国は、1989年の天安門事件以来、毎年ほぼ2桁増の軍事費拡大を続け、地域における軍事的プレゼンスは飛び抜けて大きな存在になっている。とりわけ中国人民解放軍は、ステルス機や空母建造計画など威嚇力や攻撃力増強に動いており、周辺国の懸念は増すばかりだ。

また中国政府は既に、小平が80年代に打ち出した外交方針「韬光養晦（とうこうようはい）」（能力を隠した下外交路線）を放棄していることから、露骨な武力外交への危惧も高まっている。

これまでASEANは、隣接する大国・中国との関わり方には神経を使ってきた

これまでラオスへの歴史的な絆や影響力を持つてきたベトナムの影は薄まる一方だ。

人権を踏みこむ軍事政権だとして欧米諸国から経済制裁を受けてきたミャンマーの後ろ盾になってきた中国は、ラオス同様の7000億円の巨額投資を仕掛けており、同国西部のチャオピユーから昆明までを結ぶパイプラインや道路、鉄道建設プロジェクトが進行中だ。他のASEAN各国も、中国とは経済面を中心に協力関係強化を進めざるを得ない状況にある。

一方で歴史的な教訓や南沙、西沙諸島の領有権問題など力を付けた中国に対する懸念はまだまだ大きなものがある。何より「銃口から政権が生まれる」とした毛沢東元国家主席の革命哲学を国家のDNAとして持つ中国は、力の真空状態が生まれるやそのDNAが発動する体質がある国柄だ。南ベトナムから米軍が撤退すると翌年の1973年、直ちに中国はベトナムの西沙諸島に侵攻し実効支配している。また92年の比スービック、クラーク基地からの米軍撤退後、フィリピンが

領有権を主張する南沙諸島に侵攻し実効支配に踏み切ってもいる。

こうした歴史的事実は近隣諸国をして、中国の経済的繁栄のおこぼれにあずかりたいと思わせる一方で、足を一歩踏み外すと奈落の底に突き落とされかねないという安全保障上の懸念も同居させている。

ASEANとしては加盟国10カ国だけでなく、米露を含めた大国をも関与させることで中国牽制のカードとして、こうした懸念を払拭したいのだ。

これに対抗して中国は二つのカードを切り返してきている。一つは札東攻勢を伴った東南アジアへの南進であり、一つはASEANそのものへの巧妙な内部介入だ。

ミャンマーやラオスへの7000億円投資は先述した通りだが、さらに中国はこのほど、インドネシアにも7000億円の巨額投資を約束している。ただこれに期限が付いていないところがみそで、中国とすればASEAN議長国であるインドネシアの采配次第では、反故（はげ）とは言わなくても先伸ばしにす

上海港に停泊する中国艦船



経緯がある。国内総生産（GDP）で昨年、日本を追い越し世界第2位に浮上した中国の経済的求心力は高い。二十数年前、ルックイースト政策を打ち出して日韓モデルとした経済成長を遂げたマレーシアは現在、事実上、ルックチャイナに舵（か）を切っている。総額7000億円ものラオスへの巨大投資で、中国雲南省昆明からビエンチャンまで高速鉄道敷設に乗りだした中国の存在感は高まるばかりで、

ることが可能だ。いわば中国は、アジア首脳会議の議長国となるインドネシアにエンジンをつら下げていると言ってもいい。

こうしたエンジンを蹴ってインドネシアが、アジアの安定と自由に寄与する大局的利益を選択できるのが、EASの一つの焦点だ。

またミャンマーは2014年のASEAN議長国に立候補しているが、この背後に中国が糸を引いている可能性も否定できない。

ミャンマーでは、昨年11月の総選挙を

## 米露参加で主要国揃い踏み

欧米諸国の新政権に対する経済制裁も継続されたままだ。だが、皮肉なことに、

この経済制裁は一向に効き目がない。最大の理由は、陸続きの隣国・中国やタイ、さらにインドがその穴を埋め、経済制裁の効力を封じるとともに、国際的に孤立しないように助け舟を出しているからだ。近年はロシアもこれに加わってい

受けてテイン・セイン首相が今春、正式

に大統領に就任し新政府を発足させた。テイン氏は軍服を脱ぎ、民族服を着込んで大統領就任式に臨んだ。テイン新大統領とすれば、軍事政権から民生に移管したことを強調しなかったもようだ。これまで軍服を着た閣僚が多かったことから新鮮ではあったが、新閣僚や国会のほとんどは、軍閥関係者で占められている。

ミャンマー新政権の皮袋こそ新しい皮袋だが、中身は古い酒でしかなく、新政権は軍服を脱いだ軍政支配が続く見込みだ。

るが、最大の後ろ盾は中国だ。

例えば欧州連合（EU）の経済制裁の圧力を受けて、ハイネケンが撤退したものの、代わってミャンマーのビール市場を席巻したのは7社に及ぶ中国製ビールだった。また米国は、ヒスイの交易を禁じる制裁措置を取ったが、ヒスイのバイヤーは約9割が香港の宝飾産業界など中

国系が占め、実質的な被害はなかった。

またミャンマーの最大輸入国は中国で、日本からの輸入額の4倍以上だ。チーク材やヒスイをはじめとした宝石などが上昇傾向にある。さらにミャンマーの外国人留學生の筆頭は中国人學生が占めている。そしてミャンマー政府は、中国の新華社通信に記者駐在を認めるなど中国とのパイプは強まるばかりだった。

結論から言えば、欧米型制裁主義は中国に塩を送るだけだった。中国は馬拉ツカ海峡有事の際、ミャンマーをエネルギー補給路としたい思惑があり、関係強化を進めてきた。中国とすれば、そうしたミャンマーの後ろ盾となっているポジションを活用して、ミャンマーがASEANの議長国になる権利を行使するように画策し、ASEAN取り込みに動いているとされる。それに成功すれば、中国の核心的利益を担保できると読み込んでいる。

核心的利益とは、中国が領有権主張で一切の妥協を拒む地域を意味し、中身はずばり「南シナ海」の覇権だ。中国は従来、台湾、チベット、新疆ウイグル自治区を

ベトナム中部のニャチャン港、すぐ目の前が南シナ海だ



核心的利益としてきた経緯があるが、昨年の温家宝首相が口にした「東シナ海は中国の核心的利益」との言葉以来、これに加わった。

さすがに米のクリントン國務長官などが公海の自由航行権などを盾に反発したことから、一時的にはトーンダウンしている感もあるが、中国の本音は「南シナ海」の覇権構築であることは明白だ。

今年7月、インドネシアのバリ島で開催されたASEAN地域フォーラム（ARF）で中国は、南シナ海ガイドライン策定で合意した。これは2002年、ASEANと中国で合意した領有権問題の平和的解決を図ろうという「南シナ海行動宣言」を履行するための具体的な事業指針（ガイドライン）を作ろうというのだ。一見、柔軟路線を選択したように見えるガイドライン検討に動いた中国の真の狙いは、南シナ海問題で米国の介入を排除し、あくまで二国間協議に持ち込むための時間稼ぎに過ぎない。

南シナ海には南沙諸島があり、中国が実効支配している西沙群島（パラセル群島）や中沙群島とともに南海諸島を形成している。この南沙諸島の領有権を主張しているのは中国、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ベトナム、台湾などだ。中国は、周辺地域に眠る天然ガスや石油などの海底資源を持続的経済成長を続けるための原資として確保したい意向だ。さらに海南島の三亜基地を母港にした弾道ミサイル原潜を潜らせておく戦略海洋が南シナ海でもある。南シナ海は

偵察機や衛星などからの補促を免れる深度をもった海域があり、ICBM（大陸間弾道ミサイル）DF-31（東風）を搭載した原潜を潜ませておく戦略海洋となっている。

米ロや欧州、日韓印など主要国すべてを射程に収めたミサイルを搭載した原潜は、あちこち動き回る必要はなく、オオサンショウウオのように南シナ海の深海にひっそり潜んでいるだけでいいのだ。この原潜こそは、いざという時のための中国の最終兵器に等しい。やくざの抗争事件でもドスを手にしていれば、そうそうかつには手を出しかねる。ニューヨークのマフィアにしても、相手がマシンガンを手にしていれば、それを上回る武器を準備しないと行動を起こせない。

中国は武力の効用を熟知している。武器というのは使うためにではなく、ただあるというだけで相手を畏怖させ、こちらの政治的要求を飲ませるバーゲンングパワーとしての役割もあるのだ。何より中国は「戦って勝つのは下の下。戦わずして勝つのが最良策」との孫子の兵法の伝統がある国だ。

# 武器輸入で中韓印パが最大国に

## 軍拡競争に入つたアジア

### ストックホルム国際問題研が報告

ストックホルム国際問題研究所はこのほど、アジアが軍拡競争のテンポにおいて世界第一となったと報告した。武器輸入では、インド、中国、韓国、パキスタンが最大国として浮上、この4カ国だけで、世界の武器貿易の4分の1以上を占めるほどになった。

最大の理由は、1989年の天安門事件以降、ほぼ毎年2桁増の軍拡路線を突き進んできた中国の軍事的台頭と、世界の保安官としての米国の力が退潮傾向にあるなど、国際的なパワーシフトが起きていることだ。

アジア太平洋地域は現在、冷戦終結後、もっとも大規模で急速な軍拡競争に突入しようとしている。インドは年

間320億ドルを軍事費に割いているが、中国やパキスタンの軍備増強に合わせ、今後毎年8%ずつ増額していく方針だ。空母も1隻体制から3隻体制へと増強を図る。また韓国は、今後15年間で5500億ドルの予算を、軍備充実に充てる予定だ。

東南アジア諸国連合(ASEAN)でも事情は同じで、加盟国各国が軍拡競争の渦に巻き込まれている現実がある。

Aセアン加盟国であるブルネイで今春、開催された武器見本市ではこうした状況が色濃く反映された。この武器見本市は、一年おきに開催されているが、今回の武器メーカー参加社数は前回に比べ2倍の320社、メーカーの出身国も欧

米を中心に30カ国と大きく広がった。銃や手榴弾といった小型のものから、戦車や航空機などといった大型のものまで、各メーカーは最新技術を組み入れた新型武器をずらりと並べ、ASEAN各国から訪れた軍関係者に積極的な販売攻勢を仕掛けていた。

ASEANが軍拡競争に巻き込まれている最大の要因は、南シナ海の領有権問題だ。

南沙群島の一部または全体にわたる領有権は中国、ベトナム、台湾、マレーシア、フィリピン、ブルネイが主張している。その主張は相互に厳しく対立し、なかでも中国とベトナムは1982年にこの問題でも武力衝突を引き起こしたほど

インドが保有する英国製空母「ヴィクラート」(約2万8千トン)



られる石油・天然ガス資源であり、マレーシアは海域南端で20年近く採掘を行なってきた。さらにベトナム、中国は鉱区を設定して外国企業の探查活動を誘致している。この経済的価値の高まりが南沙群島領有権問題を地域紛争の最大の火種としている模様だ。

近年では、ベトナムが行っていた海底資源の調査を中国が妨害するなどといった実力行使が相次ぎ、緊張が高まっている。この海域で巡視船や監視船を増強して実効支配を強めようとしている中国は、ベトナムだけでなくフィリピンやマレーシアに

対しても力の行使に出ている。

これに対抗しようと、フィリピンやマレーシアなどASEAN側の国々も装備の近代化や増強を進めているのだ。フィリピン国軍は、南シナ海の領海警備のため海軍力を増強する方針を打ち出し、潜水艦の購入も計画している。

なお南シナ海と関係の無い国々にも、

この軍拡競争の渦に巻き込まれている現実がある。ASEANは加盟国間でも領有権などをめぐって摩擦を抱えている。南シナ海の緊張を受けて一部の国が軍拡を進めると、その国と摩擦を抱える隣国が軍事的なバランスを図ろうとして軍拡を進めるという連鎖的な反応が起きているからだ。

その代表的な例がインドネシアだ。インドネシアは、新型の戦闘機や潜水艦などの購入を積極的に進める計画で、軍事予算を来年から倍増させる予定だ。

しかし、これは中国に対抗することが第一の目的ではなく、広大な国土と領海を持つインドネシアはマレーシアやフィリピンなど隣国と領土や領海をめぐる摩擦をかかえ安全保障上、最も差し迫った課題となっているからに他ならない。インドネシアは、南シナ海で中国と問題を抱える国々の軍拡状況を睨みながら軍備増強を急いでいるのだ。

ASEANの軍拡競争は、この地域の新たな火種となる可能性が出てきている。

# 駐日欧州連合(EU)代表部大使と対談(上)

## EUは東アジア共同体の道標

今回の「ペマ・ギャルポVIP往来」は、先だって駐日欧州連合(EU)代表部を訪問して話を伺ったハンス・ディートマール・シュバイスグート大使へのインタビュアーです。

(文中 Tは大使 Pはペマ・ギャルポ)

**P** 大使閣下、今日は民間外交推進協会(FEC)のために貴重な時間を頂き、感謝申し上げます。本日のインタビュアーはFECの機関誌と、私に関わっている「政界往来」という2誌に掲載させていただきます。閣下もご存知と思いますが、FECは民間外交に力を注ぎ、政府、外務省の立場ではできないことを民間の立場から補い、協力している団体です。大使閣下もご承知のように菅総理の外交と防衛に関する施政演説をFEC主催で行いました。

**T** もちろん、FECのことは良く知っております。私も帝国ホテルでの菅首相の演説は聞きました。

**P** ありがとうございます。FECには常任理事が二人おり、私はその内の一人ということになるのですが、私はチベットの出身で、本来はアジアを担当するような役割をいたしております。

**T** ええ。あなたのお名前を伺って、チベット人だろうと思えました。

**P** でも今は日本国籍です。閣下、早速ですが私達は欧州連合(EU)のこと、

特にEUができた経緯などを学んで、東アジア共同体の道しるべにさせていただけばと思っております。そこで、まず閣下ご自身のことについて伺いたいと思います。いつ、どのような経緯で日本に着任されたのですか？

**T** 私はもともとオーストリアの外務省の人間ですが、以前に10年ほどオーストリアEUの財務省に外向していました。1992年に日本に大使として勤務し、その時は大変有意義で楽しい時間を過ごしました。その後、在中国オーストリア

ハンス・ディートマール・シュバイスグート大使



**T** いいえ。これは少し複雑な仕組みです。まず、個人がEU方に申請します。かなり競争が激しいのですが、EUの選考委員の審査を合格すれば、自国の政府からEUにいる期間中、休暇をもらいます。期間終了後は本省へ戻れるようになっていきます。EUの選考審査に合格すれば、加盟国は拒否しないことになっています。

**P** 期間終了後は必ず戻る義務はあるのですか？

**T** 戻ってもよいですし、延長を願い出ることも可能です。

**P** EU大使在任中は、閣下はオーストリア人ということになりますか？ それともEU人になるのでしょうか？

**T** もちろん、EU人です。

**P** 閣下がオーストリア国の大使でいらっしゃる時と、EU大使でいらっしゃる時に、何か大きな違いはありますか？

**T** もちろん、違いはあります。国を代表するときは領事業務、両国の親善、貿

易振興、あと特に文化関係など、幅広い分野において責任がありますが、守備範囲は二国間関係に限られます。EU大使の場合は全加盟国を代表し、EU地域全体のことを考慮しながら行動する必要があります。以前はEU議長国のプレジデント(大統領)は6カ月で交代していましたが、現在はその役割はEU代表部が常時担うという常任体制制度に変わりました。現在、EUは移行の時期にあり、大きく変わろうとしています。

例えば日本との経済連携的パートナーシップ協定(EPA)を結ぼうとしていますし、政治的協定も検討中です。そうした時、このような大きな政治的、経済的課題はもはやEU加盟国と日本の二国間単独の問題ではなく、EUの行政の域に入ります。安全保障や外交問題の分野でも、EUとしての立場で方針をより強く打ち出そうとしています。例えば、北アフリカ問題やアフガニスタンの問題について日本政府と協議する場合、個々の加盟国が日本と協議するのではなく、EU代表部が彼らを代表して協議します。しかし、領事業務や教育や留学、文化交

大使になり、さらにその後本国からブリュッセル駐在のEU大使に任命されました。そして、EUで抜本的な機構改革組織変革が行われた際に私はEUの外交組織に志願し、今年の1月に再び大使として日本に着任できたことを大変うれしく思っております。

**P** EUに志願なさったということは、オーストリアの外務省を退官なさったのですか？

流などは引き続き国単位で行います。加盟国の歴史、伝統文化が多様性に富むEUのモットーは「Unity in Diversity」（多様性の中の統一性）です。各国の特質は十分に尊重されています。つまり、EUとして行動することが効率と効果を高める分野では、できる範囲で可能なだけの統一性を図り、文化など異なる分野は多様性として現実的に認め、具体的に育てていくという方法です。

**P** 大使閣下は日本との経済連携的パートナーシップ協定について触れられましたが、もしこれが具現化した場合、どれだけ加盟国に対し効力がありますか？  
 確か現在加盟国は27カ国だったと思いますが、関税などの面において各国が約束を守るのでしょうか？

**T** 100%効力を発揮します。なぜなら、そのような協定に入る前に全加盟国は方針を了承し内で十分に議論し、合意を得て欧州委員会（行政政府・内閣に相当）に交渉する権限を委ね、その結果合意された協定は、欧州連合（EU）理事会および欧州議会で承認（批准）を経て発効後には法的拘束力を持ち、締結し

た条約、協定は、27カ国全てがそれを遵守しなければなりません。

**P** 大使閣下、教えていただきたいのですが、EUには欧州議会、欧州理事会常任議長、執行委員会（内閣に相当）と、EU司法裁判所、欧州中央銀行などがあって、まるで合衆国のようなのですが、一方においてはフランスはフランスの中央銀行を有し、独自の金融政策、外交、防衛政策を持ち、英国、ドイツも同様です。つまり、これらの国の主権とEUの主権が重複し矛盾は生じないのでしょうか？  
 EUは最終的に一つの統一国家を目指しているのでしょうか？

**T** 少し認識の違いがあるようですね。EUが優位性を持つ分野というのがあります。例えば、フランスの中央銀行はあくまでも欧州中央銀行という機構の一部であって、独自に政策を持ち出すというようなことは今ではありえません。単一通貨を用いるドイツ、フランス、オーストリアなど17カ国はユーロ圏機構に加盟しており、独自の金融政策は打ち出せませんが、この機構に加盟していないユーロを使用していないEU加盟国は

その枠には当てはまりません。あなたは司法裁判所最高裁のことを指摘しましたが、もし加盟国がEU法のルールに反するようなことがあって執行委員会と対立するような事態が生じた場合、執行委員会はルクセンブルグにある最高裁判所に提訴される可能性があります。その最高裁の判決はすべてに優先し、最高位であり、EU競争法違反などで罰金などを課せられた場合は支払わなくてはなりません。あまり一般的には知られていませんが、EU加盟国の法律の70%はEU法なのです。現在は各国の議会・国会よりもEU本部のあるブリュッセル議会のほうが多くの法律を制定しています。これらの機関、この最高裁や議会の存在からもわかるように、EUはただの国際組織ではありません。EUの国々と国民は、主権の多くの部分をEUに移譲しているのです。もちろん、予算編成や治安維持、福祉などは引き続き各国の政府が行っていますが、貿易政策、競争政策、エネルギー政策問題などは、もはや一加盟国では変えられないのです。EUとして取り組んでいます。

## 「日本人の気概」 中條高德著

### 被災者に希望の光を見る



の指揮をとりえた」と言う。シエア60%のキリンの下で7%にあえぎ、ハーバード大学には絶対に勝てないと指摘されながら、著者は生ビール作戦で1位の座を勝ち取ったのだ。

第一線を離れた著者は、靖国神社近くに住まい、毎朝の参拝を日課としている。その前に、新聞の切抜きと整理、読書、さらに散歩と腕立て伏せ50回に逆立ちと

いう84歳だ。

ところが昨秋、心筋梗塞が発見され、主治医に禁足を命じられた。しかし、「パッションが燃えたぎり」、息子に付き添われ、車椅子で富山の講演に。機中で手帳に妻への遺書を書いた。「我、事において後悔せず。……許し給え」と。これもまた大きな逆境だった。

「戦後ほぼ半世紀、国を護ることも忘れ安逸の時を過ごしてきた我が国土を、我が民族を大災害が襲った」と慨嘆しながらも、「眠っていたこの民族の美質がそこに現れた」と、被災した人たちの振る舞いに、復興への希望の光を見ている。（致知出版社、1470円）

## 書評

大震災に遭遇した著者は「逆境は神の恩寵的試練」だと思つたと言う。それが日本の伝統的な神観である。守護とともに崇りは神の重要な属性で、それを鎮めるため祭りを行ってきた。

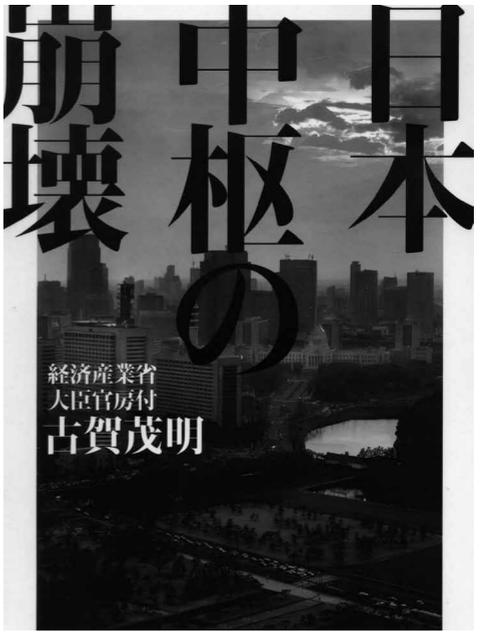
陸軍士官学校を卒業した著者が、敗戦を迎えたのは19歳の時。「若者は死を急ぐな。新生日本の再建に励め」と説教して自決した先輩もいたと言う。まさに大逆境だが、「これを堪え忍んだ経験があったればこそ、死の宣告を受けたアサヒ軍

## 「日本中枢の崩壊」 古賀茂明著

### 国民のいつまで考えない人たち

経済産業省の高級官僚の著者は2008年に国家公務員制度改革推進本部事務局審議官に就任し、渡辺喜美行革相の下で公務員制度改革に取り組んだ。ところが、政権交代後の09年、公務員制度改革の担当を解任され、経産省に戻る

が、官房付という閑職に置かれた。そこで、メディアで政府の公務員制度改革を批判し、名前が広く知られるようになる。昨春秋、参院予算委員会にみんなの党の参考人として出席し、骨抜きの下取り対策などを批判すると、仙谷由人官房長



官に「将来を傷つけることになる」と喝された。

著者は、国家公務員の天下りは必ずしも悪ではない、それが国の発展にプラスであればいいとの考えだが、国益よりも省益にとらわれ、官僚が内向きになる最大の原因であることから、その根絶を訴えている。例えば、東電はじめ電力各社は発電・送電を地域独占しているのだから、電料金を転嫁でき、安定経営が可能である。地域において最大の調達企業であり、学界や政界に資金を、組合を通して票を提供し、「原子力村」の支配者となっている。

事故後の対応を見ない。そうした官僚主義を打ち破るのがと、東電社員も公務員と同じような発想と振る舞いである。保身が第一で、国民のことなど考えていない。 (講談社 1680円)

### 「日本人の誇り」 藤原正彦著 震災が日本人を覚醒させる

大震災の意味を問う者や、家族の大切さに目覚め結婚する若者が増えている。著者はスマイルズの言葉を引き、「国家が苦境に立たされた時代こそ、もっとも実り多い時代だった。それを乗り越えて初

め結婚する若者が増えている。著者はスマイルズの言葉を引き、「国家が苦境に立たされた時代こそ、もっとも実り多い時代だった。それを乗り越えて初



歴史認識を持つことが大切で、そうでないと情報のジャングルに迷い込み、数学のような「美しい解」を得られない。 両極の解釈がある大東亜戦争を理解するには、ペリー来航の1853年からサンフランシスコ講和条約

の発効で占領が終わる1952年までを「百年戦争」として見るべきだとする。 突如、帝国主義戦争の世界に引き出された日本は、独立を守るために近代化を急いだ。日本一国では不可能なので、朝鮮、中国と共に欧米に対抗したのがアジア主義である。ところが、両国が主に国内事情でそれに応じられなかったことから、大アジア主義が生まれ、後に侵略と批判されるような道に進む。そして、敗戦。

しかし、「大局的見地から見ると、実は百年戦争は日本の大殊勲だった」と言う。目的とした独立自尊は保ち、アジアのみならず世界の植民地独立も促したからだ。

誇りとは、自らの周りの自然や人を愛すること。家族愛、郷土愛があれば、自然に祖国を愛するようになる。(文春新書 819円)

政党の政治家と話をしている、他の政治家のことをほめるのをあまり聞いたことがない」と言う。共有する志のない烏合の衆なのだ。 普天間基地の移設問題で迷走した鳩山由紀夫前総理は、もっとひどかった。よく知る人によると「目の前にいる人が喜びそうなことを言う」のが真骨頂だという。要するに、小さなポピュリストなのである。

「国家と政治」 田勢康弘著  
国を背負う気概も能力もない総理

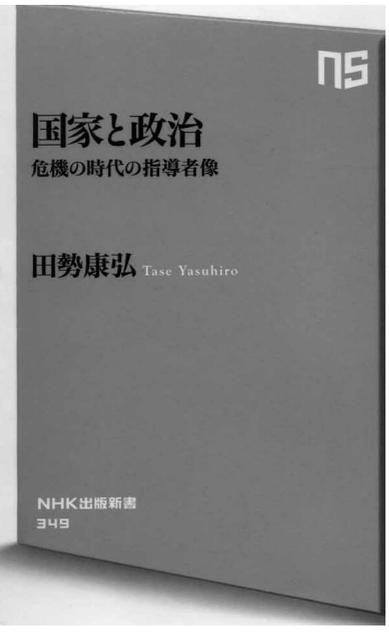
記者会見をして脱原発を発表した翌日、国会答弁で「個人的な思い」だと後退させる菅直人総理の化身は消費税や環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)でも経験済み。西岡武夫参院議

長は「疑似市民運動家の野望」だと言う。国を背負う気概も能力もない総理を戴いているのが国民の悲劇である。

菅総理は党内でもあきれられている。著者は「民主党にはだれかのつまづきをかばうという文化がない。……この

菅総理も熟慮し議論を重ねた上での発言ではなく、その時々の人々が喜びそうなことを発表する。だから、批判されると、すぐに引込め、反省もしない。思想や政策どころか、人間としての成長が見られないのである。

長年、日本の政治を観察し、早稲田大学で「目を世界に、心を祖国に」と講義している著者には、どうしてそんな政治家を生み出したのか、戦後日本の問題にも言及してほしい。「愛しき大地、愛しき山よ」と祖国愛を歌う詞に強く反応するという学生たちに、日本の将来を期待するしかないのだろうか。(NHK出版新書 819円)



# 日本大学文理学部の森昭雄教授に聞く 聞く耳をもった子供に育てよ

## 大事な口承による頭脳訓練

『ゲーム脳の恐怖』という本を出した日本大学文理学部の森昭雄教授は当初、高齢者の認知症の研究で脳波を使った研究に入っていた。それで認知症になっている人は、ベータ波がかなり低いということが分かった。その時、たまたま調べた学生の脳波が、認知症と同じ波動を示していた。その学生は、ゲームにはまっていたことから「ゲーム脳」という言葉が生まれた、という経緯がある。ゲームで複数の子供が遊んでも、ほとんど会話がなない。こうした非言語性のコミュニケーションだけでは、ものを深く考えることとかが苦手だし、人の話が聞けない。インドの子供は何かあるとすぐ手を挙げて、自分の主張をどんどん言う。言ったことに對して、脳の中で整理して考えを話す。そういう教育が徹底されていると言う。インドのコンピューター教育視察を終えた森教授に聞いた。

——インドのコンピューター教育視察を終えた感想は。

インドのコンピューター教育ではネット

トワークをつなげさせない。つなげる場合は先生が横にいて、1時間だけだ。基本的に講義をやり、そのノートを見なが

ら、自分たちでその作業をするというものだ。

またあらゆるソフトウェアを使いこなす。その中から創造性というか、自分で行ったらかどうかといった発想が生まれてくる。その辺が根本的に日本と違うところだ。

9歳の女の子が自分で開発したソフトを見せてくれた。左右対称の幾何学的な模様が出てくるものだ。「家にパソコンがあるの」と聞くと、無いと言う。学校で習って、自分で考えて作ったと言う。そうした子供の創造性を引き出すことに成功している。

——ネットだけつなげていると、高速ハ



【プロフィール】もり あきお  
昭和22(1947)年、北海道生まれ。日本大学文理学部体育学科卒業、同大学大学院文学研究科修士課程修了(文学修士)。日本大学文理学部体育学科教授。著書に『「脳力」低下社会、ITとゲームは子どもに何をもたらすか』(PHP研究所)、『ゲーム脳の恐怖』(日本放送出版協会)、『元気な脳のつくりかた』(少年写真新聞社)、『ITに殺される子どもたち、蔓延するゲーム脳』(講談社)など多数。

イウエーを走っている気分ではあるけれども、高速ハイウエーを走れる車を作れるパワーにはならないということか。

だからなかなか面白い。インドでは日本みたいに、いいパソコンを置いていない。デスクトップ型の古いものだ。そういう意味では、外的環境において日本のように恵まれていない。ただ哲学が違う

だけで、こうも違ってくる。

大学生になって習うようなことを、インドでは小学校高学年で習っている。だから小学生でもエクセルを使いこなせている。

——インド人特有の知的パワーではなくて、教育の問題が大きいということか。そうだと思う。教育の問題だ。

戦後、独立したインドが力を入れたのは教育だった。1947年、ネルー首相はインドは何も資源がない国だとして、頭脳しかこの国が生き残る道はないという覚悟を持ってスタートした。半世紀を経て、それが実ったということだ。ゼロを発見したインドは昔から理数系が強い国だが、理数系でトップをいく米国マサチューセッツ工科大学を模範としたことで、IT(情報技術)世界で飛翔する翼を得た。

——最近、どういった研究をしているのか。

今、赤ちゃんの実験をやっている。手足を動かした時、動いたという情報は、動く前に脳が先に認知している。手が動いて、動いた手とか皮膚や筋肉からの情報が脳にフィードバックして、動いたと感じているのだけれど、そうではなくて、手足が動く前に、前脳前野の所に反応がある。それが見つかった。

一方、赤ちゃんは脳のネットワークが出来上がる時期がある。ベータ波という波でとらえると10カ月から12カ月あたりにかけて、その電位が高くなる。それはネット

インド南部チェンナイの中高一貫校の休み時間



トワークと関係していると考えられる。10カ月という、立つたり、言葉を言う時期と重なり、その中でネットワークが強化されていると思われる。

——それは幼児教育に活かせるものなのか。

をたくさん読んで聞かせるといい。そうすると脳の回路がどんどん組みあがってくる。さらに反復して教えていくとシナプスが強化される。

逆にそういう時期を逃すと、ネットワークのつながりが悪くなる。ただテレビとか映像的なものだけ見ている場合には、ネットワークがあまり働かない。お母さんが本を読み聞かせていくと、文字通り「聞く耳を持った」子供として成長していく。それがIQが高くなっていく仕組みかなと思っている。

——東南アジアで山岳民族の伝承文学が失われつつある。テレビが山にも入っていったら、祖母が孫に昔話を聞かせようとしても、孫の方がテレビの方が面白いと言って、そうした話を嫌がる。そうしたテレビの電波が伝承文学を駆逐している現実がある。

歴史を見ると長年、口承による頭脳訓練がなされてきたというのが基本だ。ヒンズー教で

も、口承によって一言も間違えないで経典を伝承してきた。それが何千年と続いた。それはキリスト教でもそうだ。口承によって脳の中で正確に記憶する。そういう意味で、人間の脳は急速に進化してきた。ヒンズーでも仏教でも、伝承する側面があったということだ。

どう覚えるかというと、一行ずつ覚えていく。明日は昨日の一行と一緒に新しい一行を覚えていく方式で、それをどんどんつないで覚えていく。

そうすると間違いなく脳の中に刻み込まれる。だから百人一首でも4歳、5歳でひとつずつ覚えていく。そうすれば100ぐらいは覚えられる。インドの場合は100万字とか桁違いですが。

それがテレビが入ることによって視覚的な面だけに頼るようになり、覚えることができなくなってきた。だから近代化によって、人間の脳が退化することもある。

——テレビやゲームなどの映像文化というのは、文明的に大きな節目でもある。そう。確かに世界的な出来事が映像

として映し出すインパクトは大きなものがあるし、人類がそれを共有する意味も大きい。ただ人間が学習するとか、記憶するという意味ではデメリットをあるということだ。

視覚というのは映像が入ってくるが、言葉というのは聞いた時、脳の中で映像化するということがある。イメージするというものがそうだし、文学というのもそういうものだ。そういう意味で、「聞く耳を持つ」人になるためには、小さい時からの教育が重要となる。

ところが日本ではどうかというと、会話が面白い。お母さんがおっぱい飲ませてくれる時は、携帯メールの時間。あるいはテレビを見ている。会話がほとんどない。赤ちゃんが母親と視線が合っても、(母親は)視線を合わせない。だから子供は、人間というのは視線を合わせないものというふうに認識してしまう。

だからテレビがついている時はおとなしく、消すと落ち着かない子になってしまう。人の話は聞けない。こういう子供が育っていく。これが日本の現状だ。

それから思考する力、物を考える力を

養成しないといけない。日本の場合、脳に対する入力は一方的に入るが、出力がないという致命的な欠陥がある。自分の考えを主張させる、あるいは考えを書き出させる。インドの子供は何かあるとすぐ手を挙げて、自分の主張をどんどん述べる。言ったことに対して、脳の中で整理して、考えを述べる。そういう教育が徹底されている。

IT社会では、脳に入ってくる情報の80、90%は視覚情報と言われる。人間の五感をフル活動させていた時代と違って、いまはパソコンの普及で書きがなくなり、携帯電話やメールによって対面なしのコミュニケーションが多くなった。

「キレる」とか「むかつく」という言葉に象徴されるように、最近の子供の自己抑制力やコミュニケーション能力の低下傾向が著しくなっている。テレビゲームが、視力低下という目に見えるものだけでなく、脳そのものに影響を与えている可能性がある。

2002年に『ゲーム脳の恐怖』という本を出した。これは当時、高齢者の認

知症の研究ということで、脳波を使って、数値化できる脳波計の開発をしていた。それで認知症になつていく人は、ベータ波がかなり低いということが分かった。その時、たまたま調べた学生の脳波が、認知症と同じ波動を示していた。その学生は、ゲームにはまっていたことから「ゲーム脳」という言葉が生まれた、という経緯がある。

ゲームで複数の子供が遊んでも、ほとんど会話がなない。そして、非言語性のコミュニケーションだけで、ものを深く考るとか、そういうことをやらなくなる。「ゲーム脳」になると、昼間に居眠りをしたり、やる気が起これない。しゃべらないし、笑わない。表情が欠落したままで無表情、忘れ物も激しい。ゲームだけは集中できるが、それ以外には集中力がない。ひどいのは、キレやすいといった問題もある。

不登校の問題でも小さい時、ゲームをやって学校に行かなくなったというケースが目立つ。小さい時からゲームやテレビ漬けで、前頭前野の発育発達阻害が起こってベータ波が低下しているのだ。

こうした細胞が復活すればいいのだが、大脳皮質の細胞というのは一生もので復活はしない。海馬などは1カ月に1回ぐらい細胞が復活するが、前頭前野というのは一生ものだから駄目になると一生、復活しない。

だから最近の子供たちは事件を起こしても、反省がない。それは、そもそも悪いという判断が起らないからだ。悪い言い方をすれば、ライオンが犬をかみ殺しても、悪いとは思わないというのと同じだ。

国際幼児教育シンポジウム

—インド幼児教育の現状—

日時：平成23年10月21日（金）、22日（土）  
 1日目：10月21日（金）13：00～17：45  
 2日目：10月22日（土）9：30～17：50  
 場所：日本大学文理学部百周年記念館  
 東京都世田谷区桜上水3-25-40  
 主催：日本乳幼児発育発達研究会  
 参加費：1万円（2日間）  
 申込締め切り：10月8日（土）  
 連絡先：国際幼児教育シンポジウム事務局  
<http://kodomoedu.com/>

びと野山を走り回り、親子や友達との触れ合いを大切にするような教育について、考え直す必要がある。ゲームのボタンを通じた機械との対話でなく、直接人間同士が触れ合い、語り合うことが大事だ。

—インドの教育現場を見て、参考にすることは？

日本ではゲームやコンピュータなど視覚情報に頼り過ぎて、聞くことが困難になりつつある中、インドの教育現場を見て、一番痛感したのは聞くことの大切さだった。

インドでは3歳、4歳になると幼稚園。5歳から小学生になる。私が感激したのは、子供たちが学校で先生の話を聞いていて、先生が「皆さん、分かりましたか」と言うと、「イエス、マダム」ときちっと返事している光景だった。

幼稚園では1クラスに先生が2人ついていた。先生の声は大きくパワフルだ。子供たちも、先生の話に興味を集中して聞く。しかし、幼稚園の授業で先生はよくしゃべりはするが、一方的ではない。一生懸命、語り掛けながら子供たちから

じた。人間として最も大事な前頭前野が壊れて、悪いという思いがわいてこないようになってしまったのだ。

—昔にも凶悪犯罪はあったが、最近では無表情のまま殺人を犯したり、さらに肉親までも手にかけるといった終末的な現象が起こっている。

昔は人を殺して逃げ回っても、時効になって、私がやりましたと自首するケースがあった。ずっと悩んでいたからだ。

それが悩みも何もなく、ゲーム感覚の事件が起きるようになった。だから、そういうところから子供を守るため力を尽くしていかない限り、この国はだめになる。

—子供の遊びが変わってきた。男の子は缶けりや鬼ごっこ、女の子は縄飛びにおはじきといった昔ながらの遊びが、いつの間にか途絶えてきた。仲間が集まってもゲームを囲むといった、遊びの世界が矮小化している問題があるが。

それを幼稚園児を使って調べたことがある。例えば、「赤あげて白あげないで……」といった旗あげ体操は、脳の活性化には抜群の効果が確認された。前頭前

答えを引き出そうとしていた。質問に対して子供たちがどのように考えているか、引き出していった。極端に言えば、脳から自分の考え、言いたいことを引き出す。そういった教育を徹底してやっているという印象を受けた。

日本人は基本的に頭の良い人種だと私は思っているが、小さい時からこういう教育をどんどんしていけば、子供たちはそれなりに優秀に育っていく。日本の今の教育は、言葉は悪いが「平和ぼけ」という思いがしてならない。

そして、インドは一人っ子政策ではないから、兄弟が何人もいるという家庭が多い。人口構成はピラミッド型で非常に底力がある。家庭に帰ると、子供たちは10人近い大家族の中で会話があり、成長していく。

日本の場合は、一人でこもってしまう子供が増えている。昔は、外で近所の子供たちと遊ぶことがあったが、今はゲームが主流になっている。

今、日本の生徒は、記憶する力が非常に劣ってきている。だから、言ったことが分からない。国語の本を読んでも何を

野で右をあげるか左をあげるか意思決定していくので、すごく働くのだ。片足だけで立つバランスゲームもいい。

お手玉を3個以上で連続的に集中して行うのも、前頭前野を含めた前頭葉の広領域が右手、左手と意思決定をしているので活性化されている。特に幼児や小学生は、両親や友達と緑の自然の中で五感を刺激するような遊びを多く経験させるべきだ。

これらのことが豊かな人間形成や創造性を育むことに役立つと考えられる。

ゲームで遊ぶと、時間が早くたつというのは、反射機能ばかり使って、思考が起らないからだ。むしろ思考が入って、ある程度時間が必要だというのは、前頭前野の活性化につながり、こういった要素を取り入れることが大事だと思う。

テレビゲームに熱中し過ぎる子供は、キレやすく、注意散漫で、創造性を養えないまま大人になってしまう懸念がある。

私たちは未来ある子供たちが、架空世界の虚像の空間に生きるよりも、自然の世界を大切にし、五感を働かせて伸び伸

書いてあるのか全く分からない。東大、京大に入るような大阪の有名高校の生徒のケースでは、英語、数学はかなりできても、中学校2年生レベルの国語を読んでも何を書いてあるか分からないということがあった。

今、大学に入ったのはいいけど、先生の言っていることが全く分からなくて、単位が取れない生徒が増えている。

一方、インドの工科大学では、一つの問題に対して、一つの答えではだめだ。5通りくらいの答えを出さないと、いい点がもらえない。例えば、お湯を沸かして、沸騰した時、音が出る状態を、方程式を使って、五通りの答えを出せというような問題だ。五通りの答えを出すには、ものすごく考えないといけない。だから彼らは、ITの仕事について、トラブルが起きてても、いろんな方向からアプローチして回避する能力がある。それに比べ、日本はマルバツ式だ。ああいう勉強では、学力が伸びない。やはり一つの現象に対していろんな方向から、分析する能力を持つことが大切となる。

# 「疎開の町」をテーマに 農業、林業再生にかける

鳥取・智頭町長  
寺谷誠一郎氏  
に聞く



寺谷誠一郎町長

おうちに表札があるように、智頭町にも表札が必要だと考えた。町がどっちの方向に向かっているのか、ほとんどの町民は知らない。それは合併してパイが大

きくなればなるほど、その傾向は強い。市はどういう方向に動いているかなんてこと自体、市民はまず考えない。智頭町は小さいから、どっちの方向か

智頭はそこから違う。だから朝、起きたら緑の風が吹いているような錯覚に陥ったことがある。それ



で「緑の風が吹く、疎開の町、智頭」にした。それでも「疎開」というとまた、ブーイングが出た。

「何っ、町長、疎開という戦争じゃないか。戦争から逃げ出すような、そんな忌まわしいことを思い出すのもいやだ」と言う。

「そうじゃないんだ。日本というのは、みんなストレスが一杯たまっている。だから、自分の子供を床にたたきついたり、新聞をみると政治は何やってるか分から

ない。民主党も自民党も全部だめ。本当にそう思う。民主党が『失望された政党』

なら、自民党は『期待されない政党』だ。みんないらいらしている。だから、日本に1つぐらい、小さい町にエスケイプして、逃げてらっしゃい。ここで深呼吸しなさいよ。そういう町が1つぐらいあってもいいじゃないの」ということだ。

それで疎開を一つのテーマにしようと

している。みんながお尻を向けてた山の方は、子供が入ることで、関心が出てきた。もう1つは、森林セラピー。京阪神とかいろいろな人に智頭の田舎に来てもらって、ストレスを解消していただき、それで「はいサヨウナラ」じゃだめだから、集落、丸ごと民泊にしよう。山に入ると、民泊にとまって、リフレッシュしてもらおう。そういう仕掛けを準備している。その基地となるのが板井原集落だ。ただ山に入って静かに歩くのもいいけど、私はそこに芸術を加えてみたいと思っ

て、そこにぼんと水を落とすと、響くと言う。それ山の谷に作ってくれとお願いしている。テーマは「地球の心臓の音」だ。そういう仕掛けを色々、考えている。先だって大阪からおじいちゃんが泊まりにきた。このおじいちゃんは、家族に話すとき、同じ話が出てくる。だから、「おじいちゃん、またその話」と言われるから、もうごっくんする。つばと一緒に、話も飲み込んでしまうのだ。ところが、ここで食事して、この家の人が一生懸命、2時間ほど話を聞いてくれた。そのおじいさんは、それだけでストレスがとれたと、また来たいと言う。そういうこともある。

町民のコーラスもいい。おじいちゃん、おばあちゃんがやっているコーラス部隊だ。しかし、あまりに接近して、おばあちゃんのしわが見えてもまずいから、林の向こうから聞こえる歌声というぐらいがいいのかもしれない。おばあちゃんたちは乗り気で、やると言っている。先だって、大学の先生と酒を飲んでいたら、詩吟の話になった。地下に甕を埋

民宿というのは「さあお客様、料理ができましたよ。こちらで食べてください。あるいは布団が敷けましたよ。どうぞ」というのが民宿だ。ところが、こちらの民泊というのは、もっとハードルが低い。「お客さん、料理手伝ってよ。布団も自分で敷いて寝なさいよ」と。それが民泊なんだ。神戸のお年寄りの時も、「お客さん、



うちの畑にキュウリがなっているんで、ちよつと一緒に取りに行こう」と誘って、行って取り、洗って、切って、味噌をつけて食べたら、とてつもなくおいしかったと言

う。自分でいいで、洗って、味噌をつけて食べるなんて、生まれて初めての経験だったんだ。自分がさ

も、きゅうりを作ったみたいだった、こんなおいしいものはないと言う。田舎にステーキを食べ

に来る人はいない。だから本物のお米と、野菜に味噌汁。これが最高だ。それが分かると、みんなもやる気になる。「うちね、泊まるのに、料理がねー」と腰が引けていた主婦に、「違うんだ。自分たちが作ったも

のを出せば、それが最高だ」と言う。「だったらできる」と、がぜん積極的になる。

それが森林セラピーだ。

もうひとつは、「緑の風の吹く疎開の町」にしたでしょう。それで疎開してきたら智頭には何があるの、といった時に、みんな自信を持って「農業、林業」と言うとうと3年前に言った。

するとまた、ブーイングだ。「町長、いい加減にしろ」と。農業なんて2%しかない。93%が山で、2%が田んぼや畑だ。要するに、智頭町の農家はどれくらいいるかというと、自分の食べる米と、自分の食べる野菜を細々と作っているだけだ。売るなんてことはありえない。余った米を農協にちよつと出すぐらいだね。

林業は森の幼稚園で目が向けられ、森林セラピーでちよつと勢いが出始めた。昨年10月にテストケースでやった。みんな田舎だから、一軒一軒、軽トラを持っている。山だからチェーンソーくらい、誰でも使える。ただ、自分の山があっても金にならなきゃ、誰も行かない。

そこで軽トラにチェーンソー積んで、自分の山に行け。それで間伐しろ。4メートルほど、ちよん切って荷台一杯にしろ。それを町が決めるヤードにもってこい。ここにチップ屋を待たせる。そこでチップ屋は一トン3000円で引き取る。それを町がさらに3000円つけるから一トン6000円になる。

ただキャッシュではなく、地域券で支払う。智頭では「木の小判」と言ってるけど、地域の商店街でしか使えない地域券を発行して支払う。だから他の所では、使えない。ちよつとビール買おうと思ったら、智頭町の商店街の酒屋さんで、靴が欲しければ、智頭の靴屋さんで、地域券で支払う。これをテストでやった。すると、みんなお金、暇だから行こうということ、80歳のおじいさんも山に入るようになった。中には一人で20万円稼いだとかという人も出てきた。

すると、必ず20万円は、智頭の商店街に落ちる。こんどは商店街もすっかりしると、商店街も何とかしないとね、という話になってくる。

そういう形で、林業もすこしずつ動き

出した。農林を軸に言ったから、今度は農業だ。

日本は戦争に負けて、池田内閣の所得倍増論とか復興を目指して国民一丸となった。政治家と国民がひとつになって、目標を定めて頑張ってきた。

後期高齢者の連中は、自分が寒くても子供には着せ、自分たちは食べないでも、子供たちには食わせた。そんな苦勞をしながら、やつと豊かになった。その途端政治家は金さえあれば、農産物なんて中国から買ってこい、いくらでも安く買えるぞとなった。

林業なんて、するもんじゃない。山に行つて木が倒れたら危ない。命あつてのものだねだ。本社に行つて、外材の安いのを買つてきて、20年ぐらいいつ家を建て、雨漏りがしたらまた建て替えればいい。

そんなとぼけた話は許せない。小さくて名もないような町だが、人間を見る観光があつてもいいと思う。観光という建物を見たり、自然を見る。人間を見る観光などない。だが、智頭では、暑い時に鎌をかついてがんばっている人

がいる。こういう人が本物だ。こういう人と触れ合うのが、人間の観光だ。

後期高齢者というと、粗大ごみ扱いだが、じいさん、ばあさんこそ農業を通じて世に出していきたい。それで多少の金が入るようになれば、孫にも小遣い上げられる。大体、年寄りというのは小さくなって生きているものだ。でもお金が入れば、孫でも嫁でも「おばあちゃん」といつて大事にする。

智頭をそうした元気なじいさん、ばあさんがいる町にしたい。本当に。

智頭町には地域が6つある。それぞれに年寄りがいるから、いろんな山に行く。そこで町では、こうしたじいさん、ばあさんたちに、森の番人になってくれないかとお願ひしている。格好付けに番所をつくつてあげて、「俺は森の番人だ。子供が来たら、いろんなことを教えなきゃ」という意識で、いろいろやっていただくものだ。

だから、政治に頼つてもだめだと思つた。自民党の石破さんにも、今の政治はレベルが低すぎるから、10年、20年先をみて動くような政治集団を作つてよ、と

ハッパをかけてきた。

それで県立の農林高等学校というのが  
ある。その生徒は勉強はできない。ぜ  
んぜんやる気がない。漢字も書けないし、  
掛け算もできない生徒もいるらしい。こ  
の前、校長に会って、できない子に勉強  
しろと言ってもだめだ。できない子はで  
きない子でいいじゃないか。その代わり、  
じいさん、ばあさんと一緒にやってこれ  
から農業する。そこに若い子供が、「ば  
あちゃん手伝うよ、じいちゃん手伝うよ」  
という風に、これをやってくれと言った。  
じいちゃん、ばあちゃんを見て、若い  
やつが立ち上がったという農業にしたい



智頭の山道をトレッキング

す」というものだ。

田舎というのは、みんなコンプレッ  
クスをもっている。親がコンプレックスを  
もっていると、子供までコンプレックス  
を持つ。東京はいいな。ジェットコース  
ターがある。俺の町にはないな、と。  
コンプレックスをもってみんな下を向  
くから、そうじゃなくて威張れと言って  
歩いている。いよいよ、田舎の出番だぞ！  
本当にそう思う。

だって、新しい企業誘致になるかもし  
れない。そうでしょう。都会に疲れてい  
る人にとって、蘇生の力をもっているの  
が田舎のパワーだ。

町長になるまで、炭焼き小屋で炭を焼  
いてもいた。それである時、この余熱で  
ピザ焼いたり、パン焼いたら面白いなど  
思って、ためにしにパンの先生を呼んで焼  
いてもらった。すると、とてもおいしい  
の。

それで子供たちを招待して、一緒に遊  
んでもらうことにした。強力粉というの  
がある。それを一メートルぐらいの細い  
棒を切ってきて、そこにパンの生地を  
先つちよにつけて、それで子供に持たせ

んだ。

私は昭和18年12月4日生まれで、昨年  
67歳になった。正直申し上げて、すでに  
賞味期限は切れている。結局、若者が一  
緒に戦ってくれる、という言葉に引き込  
まれてここまでやってきた。戦うたつ  
て、町の連中と戦っても仕方がない。敵  
は本能寺ではなく政治にある。それで、  
政治に向かつて戦いを挑んで、自分がな  
るんじゃないかって、その代わり応援で助っ  
人として、やれやれと言ってきた。特攻  
隊で。それでじいさん、ばあさんという  
のがニコニコしてくれたら本望だ。

智頭町の光ファイバー網整備は、  
2011年2月に完成した。今、日本は  
いわゆるストレス社会だ。あるところか  
らオファーがあるのは、40代でストレス  
がたまつて、それを放つとくとウツにな  
ったり、メタボになったり、そういう  
ことが進行している。そういう予備軍に  
ならないための田舎生活を、というコン  
セプトの話がある。

大手のある会社が智頭町に入る。病院  
がある。田んぼも森もある田舎だ。そこ  
にパソコンを持たせて、半日は農業や山

ると、ゆっくりとパンが膨らんでくる。  
あるとき、登校拒否の児童を預かってい  
る学校から、学校に行かない子を集めて、  
連れて行っていいかと問い合わせてきた  
ことがある。

むろん、「ああ、是非いらっしやい」  
となる。で、子供が十何人きた。最初は  
知らん顔をしてこちらの目も見ない。そ  
れでも炭焼きの中から、パンを出したり、  
外で子供に棒を切つてこさせて、鼻先で  
焼いてみるという。そのころになると、  
やはり子供ですから、みんなきやつきゃ  
喜んでいいる。

それが終わって、みんな集めて、おじ  
さんの話を聞いてよ、となる。

「僕は君たちを本当に尊敬するよ。な  
ぜ尊敬するのかというと、普通、君たち  
の友達は、学校に行くのがいやだと思っ  
ても、親から『お前、行け』と言われる  
と、仕方なく行く。しかし、君たちは『俺  
は行かない。私は行かない』と強い意志  
を持っている。『行かない』と言ったら  
行かないのだろう。強い意志をもってい  
ることを尊敬する。」

たまたま学校に行かないというのは、

に、午後は会社の仕事をさせる。

要するに、給料は少し落とすが、行き  
たい人間を智頭町に送り込む。それでウ  
ツにならないようにリフレッシュさせ  
て、町が責任をもって家を紹介してくれ  
というオファーだ。

自殺防止のNGOの話を聞くと、自殺  
志願者を止めるのは大変な労力が必要  
だ。時間も金もいる。予防という一歩前  
の次元で手当てできれば、コストも時間  
も、人手も少なくてすむ。

今、田舎は息子が都会に出て帰つて  
こない。次男は大阪、長女は嫁に行つ  
た。60過ぎの父親と母親がしょうがない  
など、大きな家にただ2人で住んでいる  
ケースが一杯ある。

そういうのを責任をもって紹介する。  
会社は福利厚生で町と契約する。野菜作  
りはみなベテランですから、ジャガイモ  
作ろうがキャベツだろうが、それこそ東  
大出た人であろうが、一緒に土作りから  
始めてもらう。

1カ月、2カ月、面倒を見て、また次  
の人を入れる。だから、僕のテーマは「お  
待たせしました。いよいよ田舎の出番で

ちよつと算数ができなとか、走りっこ  
ができないぐらいいのことではかないとい  
思う。じゃあ君たちに聞くけど、喧嘩の  
強いやつは誰だと言うと、一人手を挙げ  
た。

じゃあ君ね。一回でもいいから学校に  
行って、誰でもいいから喧嘩して来い。  
そして喧嘩で一番になって来い。あとは  
学校に行く必要はない。絵の好きなやつ  
は、一回だけ行って、絵で一番になつて  
誇つて来い。歌がうまい子は歌で一番に  
なつて来い」

そんな話をして、石を川原で拾つて来  
いとけしかけた。自分が好きな大きなも  
のでも、小さなものでも、何でもいい。  
自分が気に入った石をどうせ勉強しない  
けど、勉強の机があるだろうから、そこ  
に置いて来なさい。私は石よりも、強い  
意志をもって、絵なら絵、走りっ子なら  
かけっこ。そういうことをしなさいと  
言った。

そうしたら子供たちが、ぼつぼつ学校  
に行き始めたと言う。本当に。

町長になった後、校長がもう一回だけ  
連れて行くから、また子供たちを連れて



行ってもいいかと聞いてきた。その時、「二日だけ町長やめるわ」と言っ受けた。

智頭町には、「ぶな」の森がある。森に入ると、本当にしーんとして、「君たち、難しい字かもしれないが木へんに『無』と書いてどう読む？」と。みんな分からない。これを「ぶな」と読むらしいよ。「ぶな」という木は、おまえのような木はないと言っ、戦後、本当に切っしまった。お金になる杉の木やヒノキに全部換えていった。

お前のような木はいらないからと、

滴の雨が降っても絶対、逃がさない。杉なんか、雨が降っても根が浅いから、ざーと流れてしまう。

そこに行ったら幻想的になるが、いらないと言われた木が、人間のためにきれいな空気を作ったり、人間が困らないように水を蓄えてくれている。その「ぶな」の木が一度でも、「お前たちのために作ってやってる」と言ったか。黙っ黙々と作っっているでしょう。

ところが、人間というのは、水飲んでも当たり前。お風呂に入っても当たり前。顔洗っても当たり前。たまには山に

ばっさばっさ切っった。ところが、今になって「しまった」と思っっている。人間の手が入らない山奥の木は大きくなる。杉の木というのは枝を張らない。三角だ。「ぶな」というのは根が深い。根が深いということは枝をものすごく張る。

そうすると、枝を張れば張るほど、きれいな空気を作ってくれる。根が深いから、一

向かつて「ありがとう」ぐらい、誰か言おうよ。本当に。

絶対に、そういうことを言わないと、人間が犯した罪ですからね。杉やヒノキが金になると言っ、欲得ですよ。ねー、お前がいらぬ木だと言っ切っておいて、逃れたやつが、今黙っっている。森は、そういう人に、一言でも愚痴を言いますか。われわれのためにきれいな空気や水を作ってくれている。これに感謝しようというのはいけない。

だから合併なんか、もう平成の大合併というのは、山の子も、海の子も、ネオン街の子も一緒でしょう。むちゃくちゃ。そうすると、山に生まれた子は、鳥取市となると町の子になるでしょう。

山なんて知らないよ、と必ずなる。山で生まれた子は山で育ちながら、そして羽ばたいていく。海の子は海をいうものを知りながら、成長して羽ばたく。ネオン街の子は、ネオンの女性のしりを見ながら大人になっていく。そうしないと、味噌もくそも一緒でしょう。そうすると、感謝なんてことはないですよ。

今月のお題

「真夏日」「テーマ自由」

俳句

天

蝉時雨むすうの魂のそよぎかな

(福島市) 春山 敏雄

(3・11以後何を見ても聞いても、死者たちの思いや無念が聞こえてくる。夏の風物詩の蝉時雨も大震災の死者たちの声のよう……合掌)

地

ひまわりや青き海辺の眠たげに

(横浜市) 山川 一輝

(あざやかなひまわりが咲く畑。その向こうに海の波が寄せる海岸。メルヘン的な風景が日本のどこかにまだあるというのは心強い)

人

足弱のセミの低く飛ぶ舗道かな

(狭山市) 木村 秀太郎

(人間も年老いと足腰が弱ってる。セミも同じ。羽根が元気で脚が弱っ樹木から落ちてしまう。諸行無常)

【佳作】

真夏日やぐんぐんと伸ぶ麦の秋

(山形市) 五木 宗太郎

(麦の秋は夏の季語。夏の風景の中で黄金の穂先が輝いている)

夕闇のコウモリやなま温かし

(東京都) 秋山 大人

(夏の夕、河面をかすめるように飛ぶコウモリ。そうすると、もう家路にたどる時間)

俳句・川柳10月号

ひょうたん  
なまず

選者・東嶋 一刀齋

真夏日や麦藁帽子かむる子もなし

(山口市) 木村 早雲

(今は麦藁帽子をあまり見かけなくなっ。でも、昔はこれで野山を駆け回ったもの)

木槿咲く庭の向こうの団地かな

(東京都) 三木 青風

(ムクゲの花は白い清楚な花。その白い花は風景のアクセント)

川柳

天 白球を追う子らの眼に夏涼し

(東京都) 高校健児

(今年の夏は特に真夏日がこたえま。そんな中で、高校野球の健児たちの必死なプレーに拍手を贈りたい)

地 気になるぞ

賞味期限より原産地

(大阪市) 単身赴任パパ

(経済不況が食費に跳ね返っくる時、安い食品を買いたい。でも、気になるのは産地の方かな?)

人 真夏日や

シルバーと化す喫茶店

(東京都) 若年寄

(真夏日にヘタっ茶房に入ると、そこは老人たちの天国と化している。50歳、60歳はまだハナタレ小僧で叱られそう)

【佳作】

親介護の高齢ヘルパーを心配し

(三鷹市) 老息子

(来てくれるヘルパーさんもお年寄りの時代です)

お小遣い子どもより低い亭主かな

(札幌市) 弁当男子

(まず減らされるのは子どもの教育費より旦那の食費)

リストラは既定路線だわが老後

(東京都) 粗大ゴミ

(収入減少。亭主閥白とくれば居場所がなくなる?)

還暦や祝いの花に当惑し

(東京都) もう60歳

(年齢にふさわしい年の取り方は難しい。誰か教えてほしい)

【応募要項】来月のお題「祭り」

俳句・川柳をお寄せ下さい。お題に添ったものでなくても結構です。自作未発表のものをはがき1枚に3句程度まで。住所・氏名(ペンネームの場合は本名も)・年齢・電話番号明記の上で、ご投句願います。投句は返却しません。二重投稿厳禁。天・地・人の句には薄謝ないし粗品を贈らせていただきます。締め切りは毎月末。

住所 〒1174-0041 東京都板橋区舟渡2-6  
25 政界往来 ひょうたんなまず係  
メール投稿▶seikaoutai@yahoo.co.jp

「警視庁元捜査一課長」述懐の記①

交番警察官があげた殊勲

露店で見つけたファッショニング

今回、登場するのは、警視庁元捜査一課長、K氏である。現役時には、常に捜査の第一線に立ち、数々の難事件を手掛けた、文字通りベテラン中のベテラン、真の刑事<sup>デカ</sup>である。

かつて手にした事件、あるいは刑事魂について、物静かにではあるが、熱く語る。

——これまで手掛けた捜査の中で、特に印象に残っている事件について、まずはお聞かせください。

平成8年1月9日、東京・足立区の駐

車場で、頭のない黒こげの女性の死体が発見されました。

検視においても、遺体の焼毀が激しいため、年齢はもとより男女の性別すら判りませんでした。

司法解剖によっても死因ははっきりせず、いくつかの痕跡は認められたものの殺人罪を立証できない状況下で捜査を進めることとなりました。

この事件が、今でも特に印象に残っていますね。その後、この事件は予想もできない展開を見せるのです。

——最初は殺人かどうかもわからない、また被害者の身元すらまったく判らなかったところから捜査は始まった、ということですね。

そうですね。その時私は、小岩署に捜査本部を置く、外国人による連続強盗事件を手掛けていたのですが、死体発見の報を受けて、すぐに綾瀬署に（捜査）本部を置き、そちらに移りました。

この時、私は、ひとつの言葉を胸に抱いて事件に臨んでいました。鑑識課長で

私を育ててくれた先輩の一人である故・Yさん（殉職）の言葉です。

それは、『被害者の（身元が（事件解決の）ひとつのキー』という言葉です。最初は性別すら判然としなかった被害者の身元を割らなければ、捜査は前に進まない。まさしくYさんの言う通りでした。

私ほとにかく、この被害者の身元を割ることに心も体も砕いたのです。結果、あることをきっかけにして、被害者の身元が浮かび上がり、それがホシ（犯人）へとつながっていきました。

まさしく『身元がキー』となったのです。

——その被害者の身元が明らかになる時に、どのようなことがありましたか？

それはいくつもの点の積み重ねでしたが、特筆すべきことは、捜査本部に入ってもらった綾瀬署の交番勤務の警察官がもってきた貴重な情報のことです。

その警察官は、それまでいわゆる刑事がするような事件捜査の経験など一切ない人でした。

交番で道案内をしたり、迷い子を保護したりという、皆さんお馴染みの『町の

お巡りさん』でした。

重大事件が発生し、所轄署に捜査本部を置くと、そのような交番勤務の警察官も本部に所属させることはままあるのです。

その時も同じように、その警察官を本部に組み入れました。

そしてあるとき、その警察官が、びっくりするような情報をもたらすのです。

それはこういう情報でした。『被害者が（左中指に）はめていたファッショニングと同種のものが、ある露店の屋台で見つけた！』

その警察官は、本部に話していました。が、ある休みの時（※本部員でも第一期の捜査期間（当時は20日）を過ぎると、休みを取ることができる）に家族で船橋あたりに潮干狩りに出かけたそうなんです。

その時、そこに出ていた屋台に並べられていた指輪を見た。いかにも安物の指輪が屋台いっぱい並べられていた。その警察官は、ピン、ときた。

『捜査本部で常に見せられている被害者の指にはめられていた指輪と同じもの

が売られているじゃないか』と。

この注意力と「眼」こそ、警察官が持つ特殊能力に他ならないのです。

この警察官が気付いた屋台に並べられていた指輪は、確かに（被害者のものと同種でした。

その指輪は、五百円の安物でした。そこで、被害者が生きていた生活レベルが判然としたのです。

これが捜査上、最も重要な要素のひとつである「身元の特定」に直結しました。それまで、まったく捜査の経験のない警察官の確かな「眼」が見い出した殊勲でした。

その警察官は、本部が解かれたあと、いつもの交番勤務に戻り、地域の平和のためにまた自転車にまたがる日々を過ごすのです。

私は、この警察官が僥倖や偶然でその重要きわる同種の指輪を発見したとは思っていません。

それはやはり、捜査本部全員が持っていた事件を何としても解決したい、という「情熱」がその警察官の注意力を研ぎ、かつ「眼」を養ったと思うのです。そう

でなければ、休みの日に見たものなど見過ごしてしまうはず。いかにベテラン捜査官であっても、捜査本部に宿る「情熱」と「執念」が燃え立たなければ、休みの日に眼にしたものなどまず見過ごしてしまうでしょうね。

その時、あの事件で立てられた捜査本部には、「何としてもこの事件を解決するぞ」という執念がすべての捜査員に取り憑いていました。

だからこそ、捜査の経験のない警察官もベテラン捜査官並みの「眼」が備わったのです。

こんなことはなかなかないことです。私の長い捜査経験上でも、いつもあった、ということではありません。

——事件解決への「執念」というのは想像もつかないパワーを本部の各員一人一人に備えさせるのですね。

そういうことです。

今度はホシの特定に関わることですが、同じような「情熱」が取り憑いたとしか思えない、驚くべき展開がありました。

それは初動捜査時のことです。

が協力をするものでしょうか？

協力をしたところで、結局、おざなりにされることがわかっているようだったら、誰も面倒な思いをして、協力などしないでしょう。

捜査員の熱心な探索は、きっと自分の持ってきたものを大事にしてくれるだろう、そしてやがてはそれが事件解決の糸口となるのではないだろうか、そんな思いが、市民に協力をさせたはずです。

実際、この協力は、大変な資料を本部にもたらせました。この証拠品の価値はまさしく値千金だったのです。

これはやはり「偶然」などではありません。必然、だったのですね。

捜査というものは、いつもこの積み重ねがその結果を出すものです。決して一足飛びに解決に繋がるなどという、「僥倖」はあり得ません。

あるとすれば、それは「必然」によるものです。必然は、本部の「情熱」以外に生まれるものではないのです。

——捜査というものは、すなわち「必然」の積み重ねによって、事件解決まで突き進んで行く、そういうことなんですよ。

機動捜査隊員が、現場を探索中に、一枚の乾いた布団を見つけ出し持ってきました。正確に言えば、その機動捜査隊員は、一市民よりその布団を寄せられた、ということだったのです。

その市民は、その隊員に言ったそうです。

『この布団は濡れていない。事件発見の前日は雨でした。この布団は現場付近にあったものですが、これが他の布団のようにホームレスが使ったもののようなものだしたら、前日の雨で濡れていなければならぬはず。しかし、この布団は濡れていません。何か事件と関係があるのじゃないでしょうか』

確かに、その布団は濡れていませんでした。

そして、この市民が言ったように、事件発見の前日は雨が降ったのです。

この布団には、仰天するような「証拠」がきつちりと附着していたのです。

それは、ホシ特定に結びつく体液だったのです。

私でさえ、その鑑識結果を聞いたときは、「まさか」という思いでした。そして、

か。

そういうことです。

しかしその必然は、捜査員全体の「情熱」によってしか生まれてこない。これがやがては捜査員達に、「捜査上の筋力」というものを育んでいくのです。

本件では、事件解決への「情熱」が産んだ挿話が、まだまだいくつもありません。

被疑者には必ず、「支援者」という存在があります。つまり、被疑者側に立つた人、ということですが、例えば親族であるとか、友人知人といった類の人達を指します。

彼ら支援者達は、多くの場合、被疑者をかばうあまり、警察を敵視することになりがちです。

時には支援者らは、直接警察に抗議に来たりもするのです。

『無辜の者を犯罪者扱いするな』、というのです。

本件でも、そんな支援者がいました。私は捜査本部に、そんな支援者の存在を恐れてはいけぬ、ということをお願いしました。

その市民がもたらしたという証拠物件を改めて見入りました。

あとになって冷静に考えてみると、これも実は、「偶然」ではなく、「必然」がもたらした重要な証拠だった、ということに突き当たるのです。そこにはやはり（捜査）本部に渦巻く、事件解決への「執念」が形になって持ってきたものだったのです。

その布団を持ってきた市民の「炯眼」には、驚かされますが、その協力はどこから来たものでしょう。

それは事件発生から休むことなく、また飽くことなく、現場を丹念に探索していた機動捜査隊員の「情熱」がその市民に協力を仰がせたものに他ならないのです。

その市民も、いい加減な探索をしている捜査員を見ても、決して協力をしなかつたはず。

来る日も来る日も無駄とも思えるような探索を繰り返していたからこそ、その市民は自分の「見解」とともにその布団を持ってきたのです。

いい加減な探索をしている捜査員に誰

支援者の抵抗があまりに激しく、時には捜査全体がひるんでしまうケースを眼にしているからです。

支援者がいるからといって、決して「情熱」の火を落とすな、いつも心の中で叫んでいました。あの時は他の捜査員も同じだったでしょう。皆、歯を食いしばって、ひるむ気持ちを奮い立たせていた。

そうしたら、あるとき、その支援者の自宅にホシが、芝生をせつせと運んでいるところを現認したのです。いうまでもなく、その行為がホシを決定づける要素のひとつになったのです！

立ちふさがる障壁は一つ一つ丹念に取り除く。「情熱」はそれをさせます。

□

この事件は、その後、前代未聞の展開を見せながら、やがて解決へと繋がって行く。

その様はまるで、ジェットコースターに乗っているような思いにさせられる。捜査の現場とはかくもダイナミックでかつドラマティックなものなのか。

敏腕捜査官の貴重で懐愴な話は、さらに次号に続く。

▽2カ月前の本誌で国民新党の下地幹郎幹事長が「8月末には新首相誕生か」と語った通りの展開になった。菅前首相は、「前首相として邪魔にならない程度に活動していく」と殊勝だが、「私には四国八十八カ所のお遍路を続ける約束が残っている」という言葉は守られるのか。「朝の風が涼しくなってきた秋口、遍路には涼しくていい」（亀井静香議員）といった進言もあったが、出かけるべきは西の四国ではなく、北の被災地への「お詫びと慰霊の旅」だろう。リーダーシップ不在の原発対応や、ダイナミックな青写真が描ききれていない復興計画の遅延など、結局、パフォーマンスだけで実のない政治だった。そのつげは、すべて被災者にのしかかっているのだから、「奥の細道」の旅こそが菅前首相にはふさわしい。

なお、菅氏の居座りによって、外交も空白状態が続いた。レームダックの首相に誰もまともに相手にしようなどとは思わず、外交交渉が進展するはずもなかった。とりわけ、民主党政権の日米中正三角形外交論によって、米国とはぎくしやくし、防衛費の大幅アップを続けている中国には付け上がらせてし

まった。軍事的脅威を増す中国に擦り寄るといふ外交的失敗は、ナチズムの膨張を促した英チェンバレン元首相の優柔不断外交と似ているところがある。

今月号は、その中国の安全保障上の問題点にもスポットをあてた。(T)

▽タイのタクシン元首相が4年ぶりに来日した。先回は先導するパトカーはなかったが、今回はパトカー付きだ。タクシン元首相の妹インラック首相が率いるタイ新政権から「受け入れ」要請があったからだ。

だが、4年前のタクシン元首相は、拓殖大学で行った記者会見で、政府の対応におかんむりだった。外務省とすれば、できれば入国を阻止したい意向がありあった。タクシン元首相と対峙する当時のタイ政権から「受け入れぬよう」依頼があったのだ。

ここらあたりに懐の浅い政権の外交手腕が露呈する。ただ外国政権の意を受け入れるのではなく、将来を見越した腹のある外交をしないと、振り回されるだけで、しかも結局のところ、どちらからも信頼されないことになりかねないのだ。

さて、タクシン元首相は「タイの首相はこの5年で6人の首相が誕生した。日本もまもなく6人目の首相が誕生する。日本もタイも、これ以上あまり首相を多く作るべきではないと思う」と述べ会場を沸かせた。

また、タイはカンボジアと領土問題を抱えているが、「国境問題は大きな問題ではない。話せば分かる。どちらもが主権を主張するオーバールップする地域は、放っておけばいい。一方が声高に主張すれば、確執と紛争が始まる。帰属権を主張しないで放っておけばいい」と言うタクシン元首相に、CEO型政治家の見識を垣間見た。(I)

## お願い

小誌では、読者の皆様の情報提供やアドバイス、寄稿を歓迎します。ジャンルは問いません。政治、経済、国際問題や社会問題など、積極的に原稿をお寄せください。提供された情報に関しては、意欲的に取材を行うつもりです。また情報提供および寄稿に関しましては、住所、氏名、年齢、職業、電話番号などを明記の上、編集部宛までお送りください。

電話・ファックス  
03・3291・7773  
メール投稿  
seikaourai@yahoo.co.jp

国会両院記者会所属  
政界往来社

政界往来10月号(創刊昭和5年)  
2011年9月10日発行  
定価600円

本体571円

主幹 寺田 利行

発行人 佐久間 章

発行所 政界往来

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町

3-7-16 報道ビル6F

電話・ファックス  
03・3291・7773

※小誌の記事や写真、図表の無断使用は禁止します。